

2014年度 日本学連臨時幹事会 資料

開催日時：2014年(平成26年)11月8日(土) 13時06分～18時59分

開催会場：熊谷会館(埼玉県熊谷市)

【資料一覧】(敬称略)

	資料タイトル	関連議題 (番号)	備考
資料1	2014 年度日本学生オリエンテーリング選手権スプリント競技 部門試行大会 報告書	3	作成者：山上大智 (ICL2014実行委員長)
資料2	スプリントコース解説	3	作成者：山上大智 (ICL2014実行委員長・スプリントコース設定者)
資料3	スプリント会計報告	3	作成者：井戸美菜
資料4	インカレスプリントアンケート結果まとめ	3	作成者：宇井賢(幹事長)
資料5	インカレスプリントアンケート結果まとめのまとめ	3	作成者：宇井賢(幹事長)
資料6	インカレスプリント実施に向けたアンケート	3	作成者：宇井賢(幹事長) ※試行大会直後の各大学へのアンケートの書式である。
資料7	インカレスプリント正式立ち上げにあたっての実行側立場の者	3	作成者：山川克則 (副会長・YMOE社)
資料8	インカレミドルについてのアンケートの結果	5	作成者：大西康平(技術委員長)

2014年度日本学生オリエンテーリング選手権スプリント競技部門試行大会

報告書

実行委員長 山上大智

1. はじめに

本報告書は、日本学生オリエンテーリング連盟幹事会の要請に基づき2014年10月11日（土）に行われたスプリント試行大会について、執筆したものです。

大会終了から間もなく、総括しきれていない部分もありますが、今後インカレにスプリント競技部門を正式に設けるか、設けた場合にどのような形式にすべきかの議論の参考にさせていただければと思います。なお、一部は後日発行予定のインカレロングの報告書に記載した事項と内容が重複する部分がありますが、ご了承ください。

2. 本大会の開催の経緯

まず本大会の開催について述べるためには、2013年度インカレミドル前日に行われた第1回スプリント試行大会について触れる必要があるかと思えます。

2014年3月7日（金）に栃木県矢板市矢板運動公園にて、スプリント試行大会が開催されました。これは長年日本学生オリエンテーリング連盟の副理事として、またプロマッパーとして、日本学生オリエンテーリング界を支えてきてくださった（そして今も支えてくださっている）山川氏の提議によるものです。

私達実行委員会は、この試行大会を経て、スプリント競技を正式なインカレとしてインカレロング前日に行うこと視野にいれた大会開催の打診を受けており、正式なインカレとしての開催も昨年度に引き続き試行大会としての開催もどちらの可能性もあるという前提の上で、開催の準備をすることとなりました。

最終的には、このスプリント試行大会は準備の不足面も大きく、運営上・競技上の問題点も見られたこと、またその試行大会を受けて次年度以降にスプリント競技部門を正式に設けるか、設けた場合の細かい部分の議論も不足しているということになり、2014年5月31日に行われた日本学連の幹事会にて、2014年度に日本学生選手権のスプリント競技部門の正式な設立は見送り、引き続き試行大会として開催を行うという決定がされました。

以上が本大会開催に至る簡単な経緯となります。詳しくは日本学生オリエンテーリング連盟のHPに掲載されている議事録をご覧ください。

それでは以降、具体的な運営面での報告です。

3. モデルイベントの開催に関して

今回の試行大会はモデルイベントとの共催となりました。このことは本大会開催の大きなポイントであったため、まず簡単にモデルイベントについて触れたいと思います。

モデルイベントについては、インカレ規約 7.1 に「競技の前日に、モデルイベントが提供されることが望ましい」との記載があり、モデルイベントの開催は必須という訳ではありません。特にインカレロングでは、インカレのために組織された実行委員会ではなく、地域クラブ・都道府県協会・プロマッパーの方の主管となることも多いため、春インカレとは異なりモデルイベントが無いことも多くあります。

ICL2010（奈良）	地域クラブの大会にお願いして ICL を設けていただいた。モデルイベントまでは行えないということで、学連を中心に現役学生が運営して開催。
ICL2011（長野）	前日に行われた全日本リレーとの共催。全日本リレーがモデルイベント代わりとして扱われた。
ICL2012（神奈川）	モデルイベントが予定されていたが、直前に開催地の変更を強いられたため、開催できなかった。
ICL2013（富士）	実行委員会が主管、規格・運営は山川氏にて行われた。

このように「モデルイベントは実行委員会によって当然開催される」という前提は無い事を知っていただきたいと思います。

今回実行委員会でモデルイベントを開催したのは、より公平な競技を行うためには、モデルイベントの開催は重要だと判断したからです。テレインの様子や地図における表現などは、特にロング・ディスタンス競技ではルートチョイスが多く盛り込まれることから重要だと思いますし、それは競技のコースを知っているインカレ実行委員会により行われることが最適だと思います。

今後どのような形でインカレロングが行われるかは分かりませんが、可能な限り主管者の方にはモデルイベントの開催を検討していただければと思います。

やや話が脱線しましたが、このようにモデルイベントの開催を決定し、それを考慮して次に述べるテレインの選定を行いました。

4. テレインの選定

今回のスプリント試行大会では、元々テレインの候補を複数考えていました。

	① トリムパークかなづ	② 三国運動公園
会場アクセス	モデルイベント会場と同じ	モデルイベント会場から 10 km
競技性	△	○

最終的に①になった理由としては、上記のようにモデルイベントを開催することとし、それをトリムパークかなづで行うとしたことが最も大きな理由となります。会場をモデルイベントと共通にすることで、会場が異なる場合と比べて

- 競技者・観戦者が見込まれる。今回の試行大会という形からも、より多くの現役生が参加していることは大事だと思われる。またインカレとして開催する場合も、同様と思われる。
- タイムテーブルにゆとりができる。会場を別々にした場合、1時間ぐらいタイムテーブルが窮屈になっただろう。
- 運営の負荷が軽減される（会場への渉外が1か所で済む、会場・受付を共通化できる、責任者クラスが同じ会場にいれる、人員を効率的に使える、資材を共有しやすい、その後の準備にスムーズに移行できるなど）。

といったメリットがあります。

なお、前回のスプリント試行大会後に行ったアンケート結果によると、「トレインについて」という問いに対し、

「モデルイベントとの共催を優先してほしい」—— 60 票

「競技性を優先してほしい」————— 60 票

「どこでも構わない」————— 48 票

という回答結果でした。

モデルイベントと会場を同一にできるなら、運営的には非常に負担が減り、運営を行った身としては、その形で行えると運営はだいぶ楽だろうというのが正直な感想です。またスプリントとモデルイベントを別にすると、参加者・観戦者が減る可能性も考えられます。やはりインカレとして開催するからには、他の種目と同様の盛り上がりを期待すると思いますし、そうしたインカレの舞台とその舞台で走る選手を見て、新入生がよりオリエンテーリングにのめりこむきっかけとなることも多いと思います。そういった観点からも、より大勢の参加者を集めることは非常に重要だと思われます。

では実際にそういったモデルイベントとの共催が可能なトレインは常に確保できるのか？という点から考えるために、直近のインカレの地で可能かどうかを調べたところ、かなりのトレインで可能だったように思われます。なお、実際に現地で下見をしたわけではないので、本当に可能なことを保障するわけではないことをご了承ください。

	モデルイベントとの共催が可能なトレイン
ICMR2013（矢板）	矢板運動公園
ICL2013（富士）	こどもの国
ICMR2012（日光）	日光だいや川公園
ICL2012（足柄）	足柄ふれあいの村&丸太の森

ICMR2011（希望ヶ丘）	希望ヶ丘文化公園
ICL2011（長野）	アルプス公園
ICMR2010（岐阜）	困難
ICL2010（奈良）	青少年野外活動センター ※広さ的にはやや厳しい

※ ここは「競技性の高そうなトレイン」も記載すべきだろうが、それを過去のインカレにさかのぼって調べるのは時間がかかるため、申し訳ないが割愛させていただいた。

一方でモデルイベントとの共催が可能なトレインが競技性に劣るという場合は、「どの程度競技性が劣るか」との兼ね合いとなるでしょう。ここの判断はなかなか難しいところだとは思いますが。

また前述した通り、そもそもインカレロングではモデルイベントが開催されない可能性もあります。その場合は、モデルイベントとの共催という要素を抜き、該当地区の比較的近くで競技性を重視して選択することが良いかと思います。

ただし、日本においてそもそも「競技性の高いスプリントトレイン」で大会を行うというのは非常に困難です。海外で質の高いスプリントの大会が行われる場合は、近年では市街地を用いることが非常に多くなってきましたが、日本でそのようなことを行うのは、住民の方のご理解を得ることや自動車事故の危険性などを考えると非常にハードルが高いと思われます。また近年増えている大学構内を用いたスプリントは質の高いスプリントコースの可能性を秘めているものの、大学からの許可が出るか、また許可が出た場合でも競技者と大学関係者との衝突などのリスクといった点で、やはりハードルはあります。

一般の方・地元の方にご迷惑をおかけしないというのは、競技性を求める以前の、オリエンテーリングという競技を行う上での最重要なポイントです。そういった意味では、現状では公園を用いたスプリント競技が最も理解が得られやすいと思われます。そういったトレインでよりスプリント競技として相応しいコースに近付けるようコース設定者が努力する、ということが良いのではないかと思います。

※ 余談ですが、これはことさらスプリントばかり取り上げるべきものではないのかもしれませんが、よく「海外のオリエンテーリングは日本のオリエンテーリングとは異なる」と言われるように、その他の競技についても、世界基準のオリエンテーリング競技という意味では、まだまだ不十分な部分は多いのかもしれませんが。

5. 当日のタイムスケジュール

当日のタイムスケジュールは以下のような形で行いました。5/31の幹事会および6月1日の臨時総会での説明したものから、ほぼ変化はありません。

11:00～11:30 ME・WE 出場者 隔離

12:00 ME・WE 競技開始

14:00～16:00 チャレンジクラス競技、モデルイベント

このタイムテーブルは、以下のような考えの基で設定しました。

- スプリントを走った後にモデルイベントに入りたいという需要が多いかと思い、モデルイベントはME・WE出走後とした。
- 競技者・観戦者にとって参加しやすいように、午前早くからの開催ではなく、昼頃の開催とした（北陸・関東・関西・東海地区ならば当日朝発でも間に合うような時間設定とした）。
- 隔離時間も同様に、会場周辺の準備に必要な最低限の時間のみを確保した。なおかつ隔離場所には30分の幅を持たせて自由には入れるようにして、準備に時間を使いたい人と、会場への来場がぎりぎりになる人との両方に対応できることを狙いとした
- モデルイベントの時間を最低限取れるよう、スプリントは14時には終わっているようなタイムテーブルとした。

チャレンジクラスとモデルイベントを同じ時間帯に行い、なおかつチャレンジクラスをフリースタートにしたのは、モデルイベントとチャレンジクラスとの順番や行う時間帯などを、参加者自身の都合のよいように決めていただく方が良くと思ったからです。仮にチャレンジクラスの時間を決めた場合は、モデルイベントの時間が少なくなってしまう参加者も出る可能性があったため、このような方式を取りました。

ただし、「モデルイベントの時間が短いのではないか？」という懸念もありました（実際にアンケートでモデルイベントに人が集中しすぎたという意見も）。このことから実行委員会では、

- ① スプリント競技中もモデルイベントを行う
- ② スプリントの前にモデルイベントを行う

といったことも検討しました。

しかしながら、

- ① 試行大会として行い、今後の議論を行うためにも、スプリント試行大会に参加・観戦せずにモデルイベントに入ることは好ましくない。

実際にインカレとして行う場合に、インカレの競技中にモデルイベントを開催するのは良くないのではないだろうか。

大勢の観戦者がいるということも「試行」という観点から重要である。

スプリント競技中は役員が手薄になるため、モデルイベントで何らかの問題（渉外問題、怪我、競技エリアに入るなど）があった時に対応が難しい。

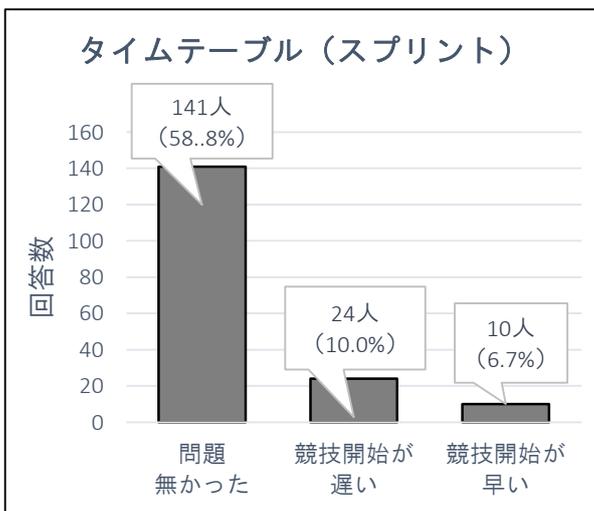
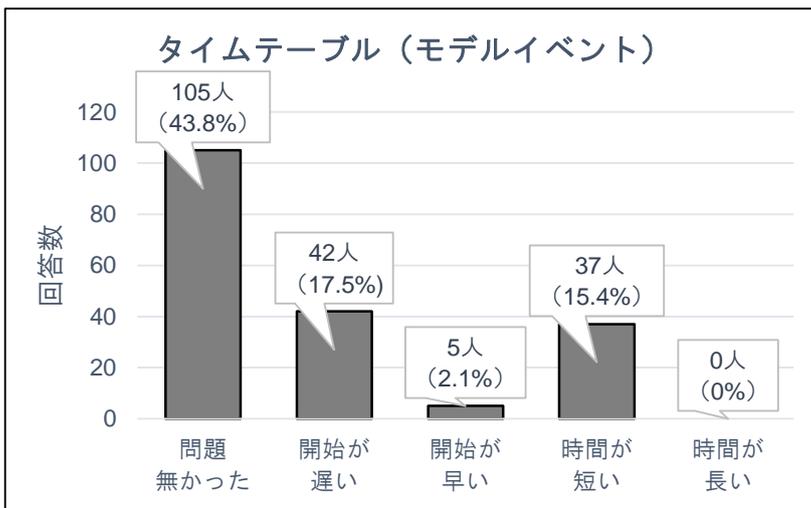
- ② 会場の体育館は土曜日の朝からしか使うことができず、その日の8:30以降でないと準備が開始できなかったため、早朝からの対応が難しい。またスプリントの時間帯のみモデルイベントを閉鎖するという事は徹底できない可能性も十分考えられ、その場合の対応や、入山・下山届が正しく行われるかなどの不安が大きかった

といった理由により、これらの方法は行わないこととなりました。

また、モデルイベントの参加人数が予想以上だったということもあります。今回モデルイベントの申込者数は 738 人と、それだけで昨年度の学生の参加人数を超えるほどの申込がありました。これほど多くの参加を想定していなかったこともあり、参加者の集中を招いてしまったことは、実行委員会側の想定ミスであり、申し訳なく思います。

その他に、可能であるならばモデルイベントの範囲をもう少し広く提供するという事も考えられます。特にモデルイベントの範囲は旧図がある場合もしばしばありますし、モデルイベントに人数が増えれば参加費収入も大きくなる（今回は 36 万 9000 円）ため、調査代もかなり賄えるとは思いますが、ただ、往々にしてモデルイベントの調査は最後までぎりぎりで行われることが多いと思うので、調査の進展的に可能かという問題はあるかと思えます。

なおアンケート結果によると、今回のタイムテーブルに対しては以下のような評価でした。



6. 選手権のスタート前の隔離

今回の大会でもスタート前の隔離を行いました。会場周辺をコースとして用いることから、そのコントロール位置を知ることは競技の質を落とすことにつながり、先に出走した選手の走りを見てしまうのは競技的に不公平だと思われます。そのため、トップスタート（12:00）の前に隔離場所に入ることとしました。隔離の方法として、運営者による引率ではなく、11:00～11:30の間に受付をする方式を取ったのは、先述の通り選手の準備や交通の都合に合わせてもらえるこの方法の方が良いだろうと思ったからです。

隔離場所としては体育館内の会議室を選んだのは、その構造から外部との接触を防ぎつつ、トイレを使用でき、雨風をしのげ、ウォーミングアップエリアを確保できるからです。また、スプリントにおいては「スタートは会場におくべき」というガイドラインもあります。それと共に、単純にそれ以外に適切な場所が無かったということもあります。

設置に関しては、会場（体育館）から見えないポスト位置は事前に設置しておき、隔離場所への入場のリミットを過ぎた段階で（11:30～）体育館周辺の設置を行いました。

なお、ラストコントロール～テープ誘導～フィニッシュは隔離前に設置を行っていました。これは、テープ誘導の設営には時間がかかることが予想され、30分以内に滞りなく設営ができるかは不安だったため、先に設置を行いました。この際、選手が隔離を行っている最中に設営を行うと、先に隔離場所に入った選手と後に入った選手とで不公平が生じてしまうため、隔離が始まる前に設営を終えるよう心掛け、10時半までに完了させるということを決めていました。このように事前にコースの一部が見えていても、それが公平な形で公開されていれば、競技の公平性は保たれると考えられます。

隔離地区に関しては、アンケート結果を見ると高評価もある一方で、部屋が狭かった、ウォーミングアップエリアが狭かったなどの意見も多くみられました。より適切な隔離地区を提供できず、申し訳なく思います。もっとも、より良い場所は無かったのかと言われると、難しいものがありますが。

なお、隔離地区がフィニッシュから近いこともあり、実況の声が聞こえ、先に出走した選手のタイムが分かってしまうのは問題ではないか、というアンケート回答がありました。これは運営者でも実況が隔離地区に聞こえることが想定されたため、どのような実況とするかを話し合い、以下のような形で行うことと決めていました。

- 競技のヒントとなるようなこととは、競技中の選手にも隔離中の選手にも公平性を欠く可能性があるため、言わないよう取り決めた。例えば会場周辺のレグで「〇〇選手、右ルートを選びました」など言いそうになるが、それを言うと例えば他のルートを見えていなかった競技中の選手にはヒントとなりうるし、隔離中の選手には会場周辺でルートチョイスがあるという心構えをされるため。

- タイムは言っても構わない。実況が言わなくても、誰がフィニッシュしたかは応援などにより分かりうるだろうし、そこからスタートリストを見れば推測は可能のため。どちらにせよ分かるなら、実況がタイムを言った方が盛り上がると思われた。

先に出走した選手のタイムを知ることが競技上の公平性を欠くとまでは言はえないと思います。確かに前の方に有力選手が固まり、軒並み前の選手のタイムが分かり、それを超えれば優勝ということが分かれば問題かもしれませんが、それを防ぐためにシード選手制を導入することはできますし、スプリントは一部の選手さえ意識しておけば勝てる競技でもありません。

また中間タイムを聞いたからペースを変えるといった競技でもありませんし、タイムを知る／知らないに左右されて体力的に追い込まなくなるのは、それは選手の能力次第とも言えます。

実際に世界選手権などでも、事前にタイムが聞こえることはよくあるらしいですし、このことを理由として大会として相応しくない、とまでは言えないかと思います。

なお待機場所から実況が聞こえないようにする方法としては、そもそも待機所やスタートを遠くに置か、スタートを会場近くに置く場合でも待機場所からスタート3分前枠に入り、1分ごとに枠を1つ前に進む際に少し距離を取らせるといった方法はあります（3分前枠から2分前枠、2分前枠から1分前枠にそれぞれ数十mの距離を空けるなど）。

いずれにせよ待機地区というのは設定に自由が利かない場合が多いので、実況が聞こえないようにするのは努力目標ではあるものの、聞こえても許容範囲とするのが良いだろうと私は思います。

7. 演出＜観戦ガイドと観戦エリア＞

今回の大会では、翌日のロング・ディスタンス競技部門の選手権クラスで使うエリアを除き、コースの6割程度を自由に観戦できるという方式を取りました。「コースに沿って観客の立入が認められる」というのはIOF競技規則にも記載されている事項で、より規格に則ったスプリント競技とするためです。

このような自由な観戦を可能とした背景には、観戦ガイドの配布があります。コースと観戦ポイントが書かれた観戦ガイドの無料配布によって観戦者がコースを知り、自ら見たいポイントで見ることが可能となりました。この観戦ガイドの配布は山川氏が高速プリンターを用いて印刷していただけたことが大きかったです。カラー印刷で1000枚もの印刷を行うのは、普通の運営者が行うには相当に難しいことだと思います（白黒印刷だと藪の通行禁止などが分からない）。

なお紙での配布は厳しいと考えていたため、元々私が想定していたのは、選手の隔離を終えた後でWebで観戦ガイドを公開するという形でした。こちらならば事前の印刷の必要がなく、労力と経費の削減となります。近年のスマートフォンの普及率を見ると、こういった方法を取るのも悪くはないと思います（もちろん紙の現物があるのはより良いものだと思いますが）。要項3で「スタート待機地

区では携帯電話やスマートフォン等外部と連絡を取ることのできる機器の使用は一切禁止とします」と記載があるのは、これを想定していたということもあります（もちろん関係なく禁止とすべきではありませんが）。

なお、観戦ガイドにはコースを記載してあったため、知らずに観戦ガイドを受けとり、チャレンジクラスに出走予定なのにコースを事前に見てしまったという意見がありました。これに関しては、注意喚起の指示を怠った私のミスであり、誠に申し訳ありません。

以上のように観戦ガイドの配布により観戦エリアを広く設定しましたが、観戦者が競技の邪魔になっていたという意見は多く見られ、「競技上不適切だった」（107人）という意見が「競技上適切だった」（26人）という意見を多く上回る結果となりました。特に指摘があった中で問題と思われるのは

- ルート上に観戦者がいて走行の障害となっていた
- 観戦者により道が塞がれ、一般の客の邪魔になっていた

といった点です。これは競技上、渉外上大きな問題かと思えます。

逆に意見としてあったものの、大きな問題ではないと考えているのは以下の2つです。

- 観戦者の声援により競技に集中できなかった

これに関しては選手の能力次第だと思われそうですし、そもそもスプリント競技はそういった状況で正しくナビゲーションをすることが求められている競技でもあります。周囲の状況に関わらず高いパフォーマンスを見せる（例えば迫力のある歓声の中でも、逆にブーイングの中でも）というのは多くのスポーツで求められる要素だと思います。

- コントロール位置のヒントを与える観戦者あるいは一般の方の存在

これに関してはやや繊細な問題になるかと思えます。基本的には無いのが望ましいのがもちろんです。ただ100%防ぐのは難しいため、スプリントでは基本的にコントロール位置は簡単な場所に設定することで、コントロールへのアタックはヒントの有無に左右されないような簡単なものにするという方式が取られます。今回のコースも、コントロールへのアタックは簡単で見えやすい位置に付いているようにしました。それでも、問題が起きるリスクを減らすために、コントロールの半径10mは立入禁止とするなどと明記しておいた方が良かったと思います。

さて先述の競技上・渉外上問題だったと思われる点に対し、「運営者がもっと注意すべきだった」というのはもちろんですし、そこに対して私の指示不足は大いに反省するところです。またこれらの注意喚起を行う人員が足りない場合は、すべてを運営者で賄わずとも、当日現役あるいはOBOGからボランティアを募るという手もあるかと思えます。

運営者でなく当日集めたボランティアで大丈夫なのかという心配もあるかと思えますが、競技開始30分ほど前に説明がしっかりとなされれば、十分対応可能だと思います。そもそも運営者で行う場合でも、そういった場所の人員は当日のみのスタッフである場合も多いでしょう。今回の運営でも、各

パートの責任者以外で事前準備に参加した運営者は2〜3名、それ以外は当日に初めて顔合わせといった形だったので、スプリントの警備に大会事情を知っている役員を付けることはほぼ不可能だったと思います。

またそれと同時に観戦者自身も、他の観戦者が競技上不適切な行動をしたり、一般の方の邪魔になっていたりする場合は、たとえスタッフでなくても注意を促して欲しいと思います。観戦ガイドを配り、その想定されるルートも記載したのは、そういったことを狙っていた側面もあります。やはりこれだけの人数に対し、運営者やボランティアだけで隅まで目を光らせるのは難しく、ある程度ポイントを絞ったものになります。しかしながら、当日実際に参加者が来てみないと読めない部分も多くあり、リスクのあるポイントにすべて人員を配置することは難しく、参加者で互いに注意を喚起しないと今回はそういったことへの協力へのアナウンスが不足しており、参加者のみなさんの協力を仰げなかった部分もあると思うので、今回の反省を（インカレに限らず）生かしていければと思います。

※ これはスプリントに限らず、インカレ全般に言えることです。インカレの主催者は「日本学生オリエンテーリング連盟」であり、実行委員会ではありません。こういう言い方は適切でないかもしれませんが、みなさんは決して「お客様」として参加して欲しくはないと思います。

実行委員会はより競技に集中できる環境を整えようと努力すると思いますが、すべてをサポート・フォローすることを求められるのは、労力的にも情情的にも厳しいものがあります。

靴の泥を玄関で叩いて落とす人が多く見られましたが、その行動と汚れた玄関を見て一般の方がどう思われるでしょうか？またその掃除のために、運営者は労力を増やす必要があるのでしょうか？

また少し前のインカレで、会場までの道の途中で広がって歩いたり騒いだりして、地元の方からの苦情を受けたこともあります。

もちろん、これらも意図して行ったわけではないでしょうし、多くの方は配慮した行動を取っていると思います。ただ、こういった行動をするのももちろん良くないことですし、そういった行動に気づいても注意を促さないのも良くないことだと思います。大会の円滑な運営や地元の方との良好な関係の維持に努めるのは、主催者たるみなさんも責任を追う所ではないかと思えます。

問題が起きないように運営者が責任を持つことはもちろん必要ですが、学生のみなさん自身にもそういった姿勢を持って欲しいと思います。

さて本題に戻りますが、観戦エリアを広くとったこと自体に対しては、「もっと広い範囲を公開すべきだった」という意見と「もっとエリアを限定すべきだった」という意見と両方が見られました。そのため今回の方式に対する評価は難しいところではあります。

ただ私見ですが、コース内を自由に開放する観戦方法は、市街地でのスプリントで向いているものではないかと考えています。例えば自宅の窓から応援したり、テラスでビールを飲みながら応援した

りという魅力があり、またそもそも市街地なので観戦を制限できない・・・というのが理由です。一方でインカレではいわゆるアリーナ型の観戦、つまり一定の場所に観戦者を集中させる形式が向いていると思います。こちらの方が、演出の資源を投入しやすく人も多いことから盛り上がる、観戦者のコントロールをしやすい、日本で馴染みが深い、といったことが理由です。

今回のコースも、フィニッシュ近くをアリーナとして人を集め、冷静な選手のナビゲーションをより見たい人のみ別の場所で見るといった形式を狙っていました。ただ私の予想以上にフィニッシュよりも公園側に人が集まり、競技に影響するリスクが高まる状況となってしまう、少し想定のスだったかと思います。

8. 演出＜それ以外＞

今回の観戦は、上述した観戦ガイドの配布と観戦エリアの設定以外では、音響設備を用いた実況と、大型ディスプレイを用いた速報とを行いました。

実況に関しては、ロングを含めて他の種目にもありますし、あった方が盛り上がるのではないかと考えています。また実況が選手が来たことを知らせることにより、観戦者が選手の競技の妨げとなることを防ぐ効果も期待できます。今回は実況から少し離れた場所により多くの観戦者が集まったため、その効果は薄かったように思いますし、そこは反省点です。

また大型ディスプレイに関しては、速報ボードの作成の手間を省きたかったのと、演出の試行も兼ねて行いました。よく個人所有のディスプレイで速報を行っているのは見かけますが、今回は 40 インチのディスプレイをレンタルしました。どれくらい効果があったでしょうか？ちなみにレンタル料金は 2泊3日で 1万 3000 円弱で、スプリントメインの資材として調達してロングの方に融通した数少ない資材です。

また演出と言って良いかは分かりませんが、日本学連技術委員長の大西氏、オリエンテーリング日本代表の結城氏、また ICL2014 競技責任者の辻に ME の前走を行ってもらいました。

これを行った理由としては、先に数人が走ることで、どのようなルートを選手が通るのかを観戦者に実際に見てもらい、自分の位置が競技の妨げになっていないかを確認してもらいたいという狙いで行いました。ただし、事前のアナウンスが不足していたこともあり、やや注目度は低かったのか、必ずしも狙い通りになっていなかったようにも思います。よりアナウンスを徹底した上で、もう少し多くの人数を走らせた方が良かったかと思いました。

なお前走のアナウンスを直前まで行わなかったのは、隔離完了後 30 分後に ME のトップスタートだったため、隔離完了から 15~20 分程度で前走者を出走させる必要があり、それまでに会場周辺の準備を完了させられるか不安があったためです。最終的には隔離完了から 15 分後にはほぼ設営が終わり、私の最終チェックも順調に進行していたため、前走を行うことができました。当日急に依頼をしたにも関わらず引き受けてくださった 3 名の方、ありがとうございました。

これ以外に検討していたができなかったこととしては

➤ 中間タイムの速報

フィニッシュ付近を一度通るレグでのタイムを出し、その時点で順位が前後の人とのタイム差が表示され、そのタイム差を見ながら最後の回しでの順位の入替わりを手に汗握りながら観戦する・・・というのをやりたくて、特に女子は最後の数レグをすべて目の届く範囲としました。実際ロングで使用予定だったオンラインコントロールを用い、もう1つディスプレイを（多少小型でも）用意してラジオコントロールの付近に置けばかなりおもしろいものになったのではないかと思います。直前期は私とフィニッシュ担当が仕事に忙殺されており、そこまで手を出す余裕がありませんでした。

➤ Twitterでのタイム更新

Twitter はリアルタイムでタイムを速報するという点で、使う際のハードルの低さも含めて非常に良いツールだと思います。これを用いて大会公式サイトにスプリント演出ページを作成してTwitter でタイムをどんどん更新し、みなさんにはスマートフォンで見てもらおう・・・といったことも考えていましたが、これも上述の通り余裕が無くて断念しました。

これら以外には、定点カメラによる動画撮影、GPS トラッキングなども思案しましたが、そもそもいろいろな面で試行錯誤の運営であったため、そこまで手を出すのは危険かと思い、行いませんでした。

9. 一般クラス・チャレンジクラスについて

今回は一般クラスを設けず、ME・WE 後に同じコースをチャレンジクラスとして設け、モデルイベントの時間帯と併せてフリースタート形式で行いました。このような形式にするメリットとしては、

- ・ スプリントは多少技術や体力の劣る選手でも最上位クラスを走り切ることが可能なので、現役のトップ選手との比較が行いやすい。
- ・ フリースタート制にすることで、モデルイベントとの時間配分などを自分の好みに合わせて決められる。また仮に予想以上に多くの参加者がいた場合でも、処理可能。スタート運営にも手をかけずに済む。
- ・ コースの作成数、コントロール設置数、地図の管理などの運営労力が少なくて済む

などが挙げられます。運営的には労力がほとんどかからず、かつそれによる収入が21万円強とME・WEの出場者による参加費収入(19万7500円)を上回っているため、運営的には非常に助かるイベントでした。

ただし、一般クラスを望む声も前回・今回のアンケートで共に少なからず見られました。今回一般クラスを設けなかった理由としては、上述のようなチャレンジクラスのメリットに加え、

- ・ 一般クラスを MEWE の競技時間と被らないようにするためタイムテーブルが厳しくなる。
- ・ 人の多い公園だったため、同時スタートで多くの選手が一斉に走る一般クラスを開催するとトラブルの元になる。
- ・ 一般クラスの競技中、MEWE の選手は隔離する必要性が考えられ、選手を長い時間拘束するのは不適切だと考えた。

といった理由があります。

仮に一般クラスの開催を望む場合は、

- ・ 今回よりも早いタイムテーブルとなる（例えば一般クラススタートは 10:30 とか）
- ・ テレインによってはコースの質が落ちる（これはスプリントに限らないかもしれませんが）
- ・ MEWE の選手の隔離時間が長くなる可能性がある

といったことを学生側としても了承し、それでも開催を望む場合に運営側に余裕があれば、という「ことになるか」と思います。

10. 運営負荷（準備）

今回のスプリント運営にあたり、スプリントパートを設け、その他のパート（スタート、フィニッシュ、モデルイベント等）と同様の扱いで運営を行い、このパートの担当者がスプリント関連（コース、資材、要項、事前準備、当日マニュアル等）を統括するという形を取りました。今回は一般クラスがなく ME・WE クラス+チャレンジクラスのみということもあり仕事量も抑えられることから、それぞれを各担当者に振るよりも、スプリントパートとして一括した方がスムーズに進むと考えてのことです。この担当者は、これまでのインカレスプリント関連の議論の経緯を知っており、かつ JOA の強化プログラムの手伝いをしていたことから近年のスプリントの競技や地図について多少知っていることもあり、今回私が行いました。ただし、ロング運営との兼ね合いでスプリントに対する準備が想定していたよりも少なくなってしまう、十分な準備で臨めなかったことは、反省する限りです。

スプリント担当として行うべき仕事は、上述のようにコース、資材、要項、事前準備、当日運営といった部分で、（今回の形式で行う場合）概ねパート1つ分程度の仕事となると思います。それ以外に

- ・ 会計責任者 → スプリントの予算と決算の作成
 - ・ 申込責任者 → スプリント参加者の申込受付
 - ・ フィニッシュパートチーフ → スタートリスト作成、ゼッケン番号割り振り、計セン業務
- といった作業がスプリント関連で増えた仕事です。また実況用の音響設備に関しては演出パートチーフがロング用に準備していたのをそのまま転用してもらいました。これらを素晴らしいクオリティでやっていただいた各担当者には、本当に感謝しています。

また事前準備に関しては、地図のシーリング、コントロールユニット・フラッグの作成、受付袋の作成、などがあります。

総じて見ると、スプリント競技に造詣のあるパートチーフクラスの人を1人確保する必要があると

というのが一番のポイントかと思えます。ただし今回は

➤ インカレロングと同日程

資材はほとんどロング資材の転用 or 数の増加（スプリント専用の資材は大型ディスプレイとコントロールに付ける「持っていかないでください」というのみ）で済む。運営者もロングで集めた人員の転用で大方足りる（警備員の数は増やそうと思えばいくらでも増やせるが）。

➤ 会場がロング・モデルイベントと同じ（上述）

試走・会場での準備もロングのついでに行いやすい。当日の役員も効率よく動ける。

➤ クラスが選手権+チャレンジクラスのみ

作成するコース数が少なくて済む。クラスが減るので運営役員も少なくて済み（スタートやフィニッシュなど）、役員の管理を行いやすい。スタートなども1か所で済む。地図のシーリングなどの事前準備も少なく済む。

という3点が大きかったこともあります。

11. 運営負荷（当日）

今回の運営では、スプリント・モデルイベントの前日（金曜日）朝から10人強の運営者が集まり、当日準備を行っていました。

今回の運営は決して余裕を持って準備を進められた訳ではなく、かなりぎりぎりの部分もありましたが、それでも土曜日の日中にはある程度余裕がありました。ロングの当日要員を基本的には前日から集めていたこともあり、スプリントのせいで当日の運営が苦しくなったという側面は少なく、むしろ集めた人員にしっかりと仕事を与えられたというように思います。なおスプリントのために当日要員の件費（交通費と宿泊費）が変わったということはありません。スプリントのために土曜日の朝から来てもらう必要はありましたが、ロングの当日運営のみの役員も基本的には土曜日中に来てもらうことにしたため（各パートごとのミーティングのためと、万が一来れなくなった場合に人員のやりくりを行うため）、交通費と宿泊費は変わらないでしょう。

ただし、今回は会場にスペクテーターズレーンを設けたこと、一般・併設クラスのスタートが会場内であったという特殊事情があり、それらの設営をスプリントのチャレンジクラスの終了後に行わざるを得なかったため、これらの準備が日没との争いとなり、余裕の無い準備となりました。これらはかなり特殊な事情のため、考慮しなくて良い場合が多いとは思いますが、念のため書き記しておきます。

また1週間前にだいたいの設営を終わらず他の競技とは違い、スプリントの設営はほぼすべて当日に行う必要があるため、受付、隔離地区、スタート地区、コントロールの設置、青黄ストリーマの設営、フィニッシュレーンなどの設営指示とチェックとをすべて当日の午前中に行う必要があります。スプリント担当の私は土曜日は目の回るような忙しさではありました。また競技中も順調に運営が回っているかのチェックや渉外問題への対応などでかなり動き回っていたように思います。仮にもう少し規

模が大きくなった場合（例えば一般クラスを設けるなど）は、競技担当と運営担当とが2人いないと指示出しとチェックが追い付かないとは思いますが。

12. 会計

会計については別途報告書を出したので、細かい数値はそちらを参照してください。

全体としては、収入が42万6900円、支出が50万6475円、収支は-7万9575円でした。

これをどう見るかは難しいところですが、今回女子が枠の数よりも11名少なかったこと（2万7500円相当）、今後よりスプリントが盛り上がりを見せ、チャレンジクラスの出走者数が増えるなどすれば、収支はより良くなる可能性があります。

ただ「収支が合わないのならば開催するのはどうか？」という意見もあり、それは間違いではないと思いますが、インカレロングなども本来は収支が合っていると言われると疑問が残ります。というのは、ロングで使う範囲の面積の調査にはかなりの時間がかかり、調査代としてそれ相応の金額を支払う必要があるかと思いますが、ロングの収入ではそれを賄えず、調査者に相応の金額を渡せない、減額を飲んでいただいてインカレを継続させてきた、といった例も過去に何度もあったように思います。昨年度のICL2013富士なども、調査を行った西村さんに適切な金額が払われていると言われると、私自身は仕事の対価としてはやや低いように思います。

今回もスプリントの支出の大きな部分は地図調査費（25万円、経費込）です。この金額は、仮にインカレの収入では足りずとも差額を補填できる程度の金額であるため、全額支払うことで赤字になるという側面はあります。

もちろん、全額払うことを否定しているのではなく、今回の金額は妥当なものだと思いますし、収支として継続性があるかというのも重要な観点だと思います。ただし、スプリントが収支が悪い、あるいはロングなどは適正な収支で行われている、というのは多少の誤解を招く表現でもあるので、一言触れさせていただきました。

スプリントコース解説

山上大智(スプリントコース設定者)

◆ 今回のコース設定にあたって

今回のコース設定にあたり、「スプリント競技」と呼ぶに相応しいコースを提供することを心掛けた。この「スプリント競技」の定義に関しては、JOA(日本オリエンテーリング協会)がHPにて掲載している

➤ 「日本オリエンテーリング競技規則および関連規則類の運用に関するガイドライン」 付表2「オリエンテーリング競技形式の概念と基準」

➤ 「競技形式とコース設定」～IOF 競技規則 Comptiton Format」より(翻訳)～

に基づいた。また IOF(世界オリエンテーリング連盟)発行の“Guidelines for Course Planning “には地図画像付きで解説されている。これらの資料はすべての種目(ロング、ミドル、スプリント、リレー)について記載されており、非常に参考になるので、学生のみなさんもぜひ一読いただければと思う。

(JOA の資料に掲載されているコース設定関連事項のまとめ)

優勝設定時間	12～15 分
地図	1:4,000 または 1:5,000 [JSSOM]
テレイン	非常に走りやすい公園、街路、森林
コントロール	技術的に容易。コントロール周辺でスピードが極端に落ちるような位置は不適切。
走行タイプ	競技を通じて非常に高速度
課題	高速下で、複雑な状況下で地図を読み解釈する力、ベストルートプランを実行する力を試す。コントロールの発見を難しくするのではなく、ベストルートを選び完遂することを要求すべき。競技を通じて、高い集中力を要求される。
観戦	<ul style="list-style-type: none"> ・ コースに沿って観客の立入が認められる ・ 重要な通路には警備員を置くことも必要 ・ スタートは会場に置くべきで、コースに沿って観客用の場所を用意してもよい
その他留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複雑すぎて競技者が高速で走りながら地図を解釈できないような場所(例えば複雑な 3 次元構造)は避けるべき ・ 競技者が私有地や立入禁止区域を通過してショートカットしようとするのを避けるように組む

また上記の事項に従った上で、より具体的に本試行大会では以下のことを留意してコース設定を行った。

① ウイニングは 13 分程度

翌日にロング競技も控える中で、ウイニングの規定を満たす範囲で短めが良いかと思ひ、とは言え規程ぎりぎりの12分にするとウイニングを読み誤って規程より短くなってしまいうリスクがあるため、この設定とした。

② 森のエリアの使用は抑える

[ここに入力]

「スプリントは市街地または公園で行われるべき」(“should be in the URBAN or PARK area”)というのが IOF の見解である。森でのスプリントは、地図からトレインがどのように解釈されるかとい部分で公正ではない、というのが理由として挙げられている。実際、どんなに素晴らしい地図であっても、森の中の走行可能度の表現の精度は市街地や公園と比べて低い。例えば「405 林」の記号(地図上で白色、俗に言う A 藪)はスピードが 80-100%のエリアを表現するため、同じ記号でも最大で 20%のスピードの差が出る可能性がある。これらのことから、森のエリアは極力使わないようにした。

ただしすべてを画一的に NG とした訳ではなく、例えば最大の 20%のスピード差が出た場合でも、50m 走り続けて男子トップ選手で3秒程度の差であるため、距離が短ければ影響は軽微であるとも言える。

また 5→6 のように、ルートを選ぶ前に現地判断ができるようにすることで、「行ってみなければ分からない」という不公平の起きるリスクを極力減らすよう意図した。

③ 選手のナビゲーションシーンを見られるように

スプリント競技は、競技者のナビゲーションシーンを見られるチャンスのあることが他の種目との大きな違いであり、また観戦上の魅力だと思われる。また逆に競技者に対しても、観戦者がいる中でも正しくナビゲーションすることが求められる種目である。そのため今回のコースのビジュアル区間は、スペクテーターズレーンを設けてレーンの中を競技者に走らせるのではなく、まさにナビゲーションしている競技者を観戦し、そのパフォーマンスを手に汗握って見る……といったビジュアル区間にできればと思い、レッグを設定した。

④ 失格を誘発しない

スプリント競技は他の種目と比べ、通過禁止とされる表記が多い。しかしながら、失格に導くようなレッグを用意して篩にかけるのは不適切である。そのため、表記上通過禁止かを過度に悩ませるようなレッグは避けると共に、流れで足を踏み入れかねないと特に判断した通過禁止表記の場所(小さな花壇や植え込みの小さな切れ目)には青黄ストリーマを張るという対処を行った。

以上のことを意識して今回のコースを設定した。

しかしながら私自身の能力不足のため、果たしてどれだけ「スプリント競技らしい」コースだったか、また今回のコースが仮にインカレのコースとして提供された場合に「学生選手権として相応しい」コースだったかと言われると、まだまだ改善の余地はあったように思う。

とは言え今回のコースと、そのコースに対する反省・評価が、日本におけるスプリント競技がより洗練されていくための一助になれば嬉しく思う。

次ページ以降に、各レッグに対する解説を記載した。走った方も走られていない方も、ぜひ参考までに読んでいただければ幸いである。

※幹事会向け資料のため、次ページ以降は割愛

[ここに入力]

スプリント試行大会(10/11)決算報告(一応確定版)

作成日:2014/11/4

作成者:井戸 美菜

収入	11月4日時点			予算		
	単価	数量	小計	単価	数量	小計
参加費						
選手権	2,500	79	197,500	2,000	90	180,000
選手権チャレンジ(学生)	1,500	99	148,500	1,000	70	70,000
選手権チャレンジ(一般)	2,000	25	50,000	1,500	30	45,000
レンタルE-card	200	39	7,800			
当日申し込み(レンタルE-card含)	-	12	16,100			
地図販売	500	14	7,000			5,000
合計			426,900			300,000

支出	11月4日時点			予算		
	単価	数量	小計	単価	数量	小計
地図作成費			250,000			250,000
保険 (スプリント+モデルイベント込の為ロング支払い)			0	20	200	4,000
備品						
その他			7,780			52,840
E-card	200	50	10,000			
メダル			26,650			
観戦用ディスプレイ			12,960			
印刷						
地図	200	295	59,000			54,500
観戦ガイド			34,204			
事前準備と当日						
交通費			93,363	2500	7	10,000
宿泊費			8,068			0
雑費 (手数料・郵送など)			4,450			
合計			506,475			371,340
決算額			-79,575			

説明;

交通費は

- ・スプリントの試走をした(山上)9/6の交通費を1/4をスプリントに
- ・大会1週間前の交通費(関係役員)の1/4をスプリントに
- ・大会当日の交通費(関係役員)のうち1/4をスプリントに
- ・その他1人で下見をしていた7/5、9/27の山上の交通費を半額ずつスプリントに

宿泊費は

- ・10/6(土)の宿泊費を1/4スプリントに
- ・10/10(金)の宿泊費を1/2スプリントに

印刷費は地図印刷はYMOEの仕事としての請求、観戦ガイドはボランティア仕事で経費のみの請求

備品・消耗品類は、スプリントで特段の支出があったもののみ計上、共通で使うものは全部ロング付け

※優勝カップ YMOE社からの寄付(レプリカ)相当、正式競技になれば大きな持ち回りカップを学連で作成

1、来年度の開催について

賛成…宮城学院女子、東北、岩手、岩手県立、金沢、金沢工業、新潟、実践女子、横浜国立、相模女子、お茶の水女子、茨城、慶応義塾、東京農工、一橋、東京、横浜国立、東工大、十文字女子、千葉、早稲田、椙山女学園、静岡、名古屋、京都、大阪、奈良女、広島

- ・今後の学生のスプリントに対する意識の向上のため、続けるべきである。
- ・ロング・ミドルのインカレがあって、スプリントのインカレがないのはおかしい。
- ・表彰の数が増えるので、モチベーションがあがる。
- ・ミドルやロングと違って、観戦が容易なので、非エリートも楽しむことができる。
- ・モデルイベントだけでは物足りないのでスプリントもやりたい。

ロングの開催地がスプリントを開催できるテレインというしほりを受けるのは問題だが、人を集めるためには仕方がない。

また、やはりまだ「スプリントのために遠出するのは…」と思う人も多いと思われるため、少なくとも今はほかのインカレにくっつけて、定着してから離すことを検討した方がいいと思われる。

今年の実験大会では良い点も悪い点もあったがこれ以上実験大会を開く必要は無いと思う。ロング前に気持ちを盛り上げることができるという理由である。

反対…新潟(少数)、東工大(少数)、京都女子

- ・試行大会を見る限り、学生のスプリントに対する意識が低い。そのような意識の低い中で、学生チャンピオンを決めるインカレを開いては、インカレの価値が下がってしまう。
- ・今までロング・ミドルの2つに照準を合わせてきたのに、スプリントにまで合わせるのは酷。
- ・インカレが増えることによって、運営者の負担が増加し、これまでの質の高いインカレが開催されるか不安。
- ・国内におけるスプリントの重要性が高まった時に、開催すればよい。(時期尚早)

スプリントをインカレとして行うことに魅力を感じない

- ・インカレスプリント自体は良いと思うが、もう少し準備を重ねた方がいいのではないか
- ・来年は今年を踏まえて見直し、試行大会に留めるべき
- ・なぜそんなに成績大会を急ぐのかがいまいち理解できない
- ・ロングと別々にして、スプリントに適切なテレインで1日大会にすればいいのでは
- ・街中とか変わったテレインとかでもすごく面白そう

まだ制度が整っていないと感じる。

筑波

正規の大会としてやるならもっとしっかりしたものを、今回以下のクオリティになるよう

なら開催しないほうが良い。

他のインカレの前日にやるというなら、そのお互いの関係を保ってやってほしい。

ロング前日…

宮城学院女子、東北、岩手、金沢、金沢工業、新潟、実践女子、横浜市立、お茶の水女子、茨城、東京農工、一橋、東京、東工大、十文字女子、千葉、早稲田、静岡、京都(少数)、大阪、奈良女、広島

- ・ロング前日にモデルイベントのみの開催だと物足りないから。盛り上がるから。
- ・スプリント単体のために遠征に行くのは面倒
- ・ミドルリレーと同時開催は忙しい。
- ・ロングに付随して行うなら、日程・金銭・交通の負担が少なくてすむ。
- ・ミドルで開催すると、競技者や運営者に負担が買掛かってしまう。別開催は、観客いなそう。

インカレスプリントがロングやミドルのような盛り上がりを見せるなら別日になってもぜひ行きたいとの意見もありました

単独ではまだまだ多くの参加者を得るのは難しいだろうし、ミドル・リレーの前日は競技者の負担の面や開会式などのイベントとの時間調整の面からも厳しい。

インカレとはいえスプリントのために高い遠征費用をかけてまで行きたくないということが挙げられた。

単独で開催するのは運営面、また参加者や観戦者(応援者)にとっても厳しい。ミドルでは選手権の他にリレーがあることを考えると今回同様インカレロングの前日開催がよい。

開催日に関しては、便宜上仕方が無いのかもしれないが

ロング前日というのはコンディション管理も厳しく、また長期休暇の合間でもないので実施会場が遠方だと交通に非常に難があり、好ましいとは言えない。

だからといって他に適切な日を挙げろと言われると挙げるできないが、しかしながらもロング前日が良いと言ってしまえるものでもないとする。

- ・インカレが3回も開かれると、金銭的にも行くのが大変。
- ・スプリント単体では人が集まらない。ロングやミドル同様に力を入れる人が増えれば、単独開催も視野に入れるとよい

- ・ロングの前日で良いが、モデルイベントなどとの兼ね合いは要改善
- モデルイベントの開始時間をもっと早くしてほしい
- モデルイベントの時間が短い

- ・インカレロング前日は選手の負担が大きそうなので別々にはしては

- ・ロング前日ではスプリントに全力を投じられない。
- ・モデルイベントとの兼ね合いもあり大変。

代案としては

- ・全日本スプリントなどの大きな大会と併設する

↑スプリント単体では集客力が低いため、全日本スプリントと併設では面白さが多くの人に伝わらないとの意見も。

ロング翌日…栢山女学園、京都、奈良女

- ・開催日はモデルイベントとは別の日に設けるべき。
- ・スプリントに特化して競技に取り組む人が増えるだろうし、インカレでも1つのカテゴリとして設定するのは適切だと思う

独立開催…金沢、新潟

- ・スプリント走りたかったがロングのためにやめた。→単独開催なら行く。
- ・そこまでして、インカレスプリントを開きたいなら、独自日程で開催するくらいの度胸が必要。

- ・今回の試行大会でスプリント参加者だけがロングで有利な点があったと言える。そういうことがないようにしてほしい。

2、観戦ガイド、観戦エリア、演出について

宮城学院女子

- ・予め観戦ガイドに観戦エリアをいくつか指定してほしい、散らばってしまうよりもある程度エリアを決めておいた方が応援も盛り上がるのではないかな。
- ・観戦ガイドにルート解説が書いてあって見ごたえがあった。
- ・観戦エリアは競技エリアとは別にしてほしい、選手の進路に観戦者がいて、それが邪魔になり選手がコース選択できていなかったから。

東北

観戦者が競技者の近くで見られる点は好評であった。しかしその一方で、観戦者の存在が競技者にとってルートの妨げになっているのではないかという意見も多かった。競技者と並走する観戦者が見られたことから、やはり観戦エリアはある程度制限する必要がある

るのではないかとの意見も目立った。実際にエリートクラスを走った選手からも、1ポ周辺など、狭いエリアに観戦者が集中していることで走りにくさを感じる意見が挙がった。観戦ガイドについてはルート解説が大変好評だった。ただし、チャレンジクラス参加者の中には、見たくない人もいるため、配り方に注意が必要ではないかとの意見が挙がった。

岩手

- ・観戦ガイドに関して、観戦エリアについて細かく記述されており、見やすかった。
- ・(競技者の意見)競技中、観戦者が邪魔であるとは感じなかった。
- ・だが、観戦者のモラルはもう少し正すべきである。そうすれば、今後もこのような形で続けてもいいと思う

思う

金沢

- ・ベストルートを手がふさいでいた。
- ・今回、スプリント参加者が翌日のロングで有利だったのではないかな。
- ・地図回収はしなくてよかったのか？
- ・観戦ガイドはあってよかった。
- ・観戦者目線では面白かった。一年生にとってはオリエンテーリングの勉強になった。

●演出

- ・ゴール周辺しかなかったのが残念。聞こえなかった。

金沢工業

選手：観戦エリアと競技エリアが近すぎると思った。

観戦エリアと競技エリアは今年3月の試行大会のときのようなほぼ分けられている状態がいいと思う。

観戦者：観戦ガイドのルート解説が良かった。

新潟

☆(観戦)エリアを絞るべき

- ・人の集まり具合でコントロールの位置やルートがわかってしまう。
- ・競技者が緊張している中、いきなり大歓声でスタートするのはいかなものか。
- ・ハチがいたので、危険。(立ち入り禁止を)
- ・コントロールの周りに人がいては、選手はやりにくい。
- ・一般人との接触が危険。
- ・一般人の誘導があった。(子どもがコントロール位置を競技者に教えた)
- ・すべて世界基準に合わせるのではなく、日本独自のやり方をすべき。まして、オリエンテーリング(スプリント)の認知が広がっていないのだから。

☆観戦ガイド

- ・観戦ガイドにコントロールが書いてあって、チャレンジクラスはカンニングした状態で走ることになって、面白くなかった。

- ・詳しいガイドのせいで、観戦者が特定のところに集まりやすくなり、競技の妨げとなった。
- ・観戦者も楽しめるようなガイドになっていて、非エリートも大会を楽しめた。

☆演出

- ・何を演出していたのかわからないほど、特徴のない演出だった。
- ・ロングやミドルの演出と何が違うのか。
- ・演出以前の問題である。観戦エリアをもう少し考えるべきであった。
- ・観戦者の存在が演出なのであろう。

実践女子

*スプリントの日に、一般客が大勢いたので、一か所に人が集まりすぎて目枠になっていた。スタポ近くは、観戦する人がおおいで、人通りが少なそうな所がいいと思う。観戦ガイドにルート解説があって、楽しめた。

*スプリントの感染エリアと一般客の集中している場所がかぶっていたので、もっと観戦エリアと一般客の集中している場所を離れたほうがいいと思う。

*観戦ガイドは選手のルートチョイスなどの見所が書いてありよかった。観戦エリアは広く自由に見れたので観戦した身としては楽しかったが、競技の面では人の集まりや追走などがあつたため、もう少し制限していいと思う。

*1ポの周辺に人が集まりすぎていて、競技者がポストを見つけにくそうにしていたのが気になった。観戦ガイドはルート解説があって、観戦していて楽しかった。

*観戦ガイドにベストルートなどのルート比較があつたのが良かった。ただし、観戦者の場所を自由にしてしまったため、一定の場所に人が集まりすぎてしまい、競技者のルートチョイスが狭まったり、ポストを見つけづらそうにしていたので改善する必要がある。

横浜市立

選手として走った感想として、スタート直後に観戦の人たちが目の前にいて面食らった。それ以外のビジュアルは適切だと思った。

お茶の水女子

・観戦ガイドは分かりやすく、事前に見所がピックアップされていたので応援がしやすかったです。ただ、観戦者が競技者のルートチョイスに影響していたり(今回の場合1→2のレグ)、公園に来場している一般の方の通行の妨げになっていたりしたことが見受けられていたので各観戦エリアにここからは出ては行けない線を引いた方が良いと感じました。

- ・観戦エリアが広く、スタートに合わせて自由に移動できたのが良かったです。

筑波

スタ1のあたりは観衆に視界を遮られポスト発見に影響があつたのは間違いない。観戦ガイドはルートまで書くものではないと思った。

東京農工

観戦ガイドはかなり見やすく応援がしやすかったのでいいと思う。選手と観戦者が近くで見やすかった。

一橋

観戦ガイドはわかりやすく数も十分であったので良かった。また、観戦エリアが自由な分走っている選手を間近で見れた点も良かった。一部ルートを塞いだり併走して後続の競技者の邪魔になっている場面もあったが、運営者や観戦者の配慮次第で十分避けられる問題であり観戦エリアを厳しく指定する必要は無いと思う。欲を言えば今回人が多くいた競技的にメインのエリアにいると結果速報が分からなかったのでアナウンスやディスプレイ等でゴール地区から離れていても速報が分かるようになっているとより楽しめたと思う。

東京

- ・ルート選択の妨げになりかけたので、観戦者には邪魔にならない程度に応援してほしい。
- ・走っている時間のだいたい半分くらいは、観戦者に見られる形になっていて、盛り上がり・緊張感があって良かった。
- ・観戦ガイドのおかげで見ごたえがあった

横浜国立

選手の立場から

今回の試行大会では大会独特の空気の緊張感などがあまり感じられず、また更に競技中競技エリアに競技者以外の人間が多くいたことなどで非常に気が散り、大会らしさが感じられず来年から開催されるインカレとしてのスプリントの指標として評価するにはいささか質が低いように感じた。観戦や演出としてはレベルが低いように感じられる。インカレの一角として扱うならばもっと凜とした空気の中で行われるべきではないかと考える。

東工大

観戦ガイドはよくできていて見る側も楽しめた、という意見が多かった。

観戦者が競技者のルートを妨げている場面があったので観戦者への注意や観戦エリアの工夫は絶対にすべきという意見が観戦者からも実際にMEとして走った選手からも挙げられた。

十文字女子

- ・観戦エリアが前回と比較して広くて良かった。
- ・観戦ガイドのルート解説があり、競技者がどのように動くかが分かり、楽しく観戦することができた。
- ・表彰はスプリント終了後に行う方がいいと思った。ロングの表彰と一緒にする場合に時間が掛かってしまうため。

千葉

観戦ガイドは、それのおかげで楽しめたところがあり非常に良かった。しかし観戦者について、参加者の競技の妨げになるような位置にいたことが見受けられた。それを踏まえて、観戦エリアの制限は必要。ガイドに立ち入り禁止エリア、観戦エリアを表記するのが

よい。

梶山女学園

- ・観戦エリアが広すぎる、曖昧
- ・テープで境界線を作るなどしてわかりやすくしたほうがよい
- ・観戦エリアと競技者エリアを区切るテープが役割を果たしていない箇所があった
観戦者が乗り出さない工夫がほしい
- ・競技エリアと観戦エリアを区切っていなかったためか、邪魔な観戦者がいた

名古屋

- ・予想以上に観戦は盛り上がったので、次回以降も最低限あれくらいのクオリティの大会にしてほしい
- ・観戦ガイドの見所(コース選択や狙い等)が面白かった
- ・参加していない競技者もその場で地図が読めるので選手の様子を想定できたところもよかった
- ・観戦者がいてかつ自由に動くのは競技の公平性の面からよろしくない。
- ・観戦エリア内であるが、選手が通りそうなルート上に観戦者がいたので邪魔だった。
- ・観戦者が集まり過ぎて道を塞いでしまっていた場面があった。
- ・観戦エリア内で選手の邪魔にならない場所がどこなのか分かりづらかった。
- ・観戦する場所を競技中の選手の邪魔にならない場所に限定した方がいい。
- ・観戦エリアをコーン,テープで区切る等、もう少し規制をかけるべき。
- ・競技エリアと観戦エリアとの境界が非常に曖昧で選手の邪魔になってしまう場面があった。
- ・今回の大会の場所では小さな子供や、中学生の団体があり、コントロールに興味を示して近づき、あわや選手の邪魔になるという場面が見られたので、その配慮も必要だったと思う。
- ・邪魔にならないようにしていたが、想定外のルートを走る選手もいて、その人たちの迷惑になってしまったような気がする。

京都

観戦ガイド

- ・観戦ガイドを配るのは良いと思うが、チャレンジクラスに参加する人にコースが分かっ
てしまうのは良くないと思う。

観戦エリア

制限した方がよい(多数派)

- ・制限しすぎるのは良くないが、競技に支障が出るほど人が集まるのは問題。コントロールに接近しすぎない工夫が必要。
- ・少なくとも、観戦者のせいでコントロールが見えなくなることは避けるべき。
- ・テープを巻いて制限しないと、走者の邪魔になる。
- ・観戦が完全に自由だと、観客が観戦場所を移動するタイミングによって、走者に不利に

なったりする。

- ・観戦ガイドに見どころを載せたら当然人が集まるので、書き方に工夫が必要。
- ・競技者は人が多いところを無意識に避けるので、不公平だ。

制限しなくてよい（少数派）

- ・目指すのは世界水準のスプリントである。海外では観光客がいる中を走る。

その他

- ・観戦エリアでない部分が多すぎた。
- ・観戦者が広く分散した方が、常に見られていて緊張感のあるレースができる。

演出

- ・実況はとてもよかったが、運営側が用意した観戦エリア内ならどこでも実況が聞こえるように、スピーカー等を用意して欲しい。
- ・速報の画面が小さかったり、光の反射があったりでよく見えなかった。
- ・シード選手だけでも GPS をつけてほしい。それだけでなく、ランダムで何名かにつけるとよいかも。
- ・音楽は今後も流してほしい。

大阪

観戦ガイド：ベストルートなどが書いてあって、とてもよかった。会場についたときにはなくなっていたのもう少し枚数が欲しかった。

観戦者：競技エリアに観戦者が多くいてやりにくかった。もう少し観戦エリアを区切ってほしい。但し、春インカレのスプリントほど区切らなくてもいい。（競技者から）

奈良女

- ・観戦者として、インカレが初めてだったので観戦ガイドはありがたかった。

京都女子

- ・観戦ガイドがあることでより楽しめた。
- ・観戦エリアは区切ったほうが良い。

広島

今回の試行大会に参加していないので何とも言えない。ただ観戦ガイドやエリアは競技を盛り上げるために必ず必要だと思う。

3、チャレンジクラス、一般クラスについて

宮城学院女子

- ・チャレンジクラスはフリースタートが良いと思う。
- ・チャレンジクラスはなくして、一般クラスを設けるのも良いと思う。その際、スタートリストをつくってほしい。(30秒置きが良いと思う。)
- ・チャレンジクラスはあってもいいが、モデルイベントと時間がかぶっていたためチャレンジクラスをみることができなかったのも時間と人数を考えた方がいい。

東北

チャレンジクラスはフリースタートが良いという意見が多かった。理由としては、モデルイベントと同時開催であるため、時間差スタートでは時間がかかりすぎ、モデルイベントに十分な時間が割けないのではないかと。併設クラスではそこまで競技性を求めず、負担をできる限り軽くすべきという意見も挙げられた。また、一般クラスについては必要ないとの意見が多かった。この理由にも、モデルイベントの時間を大切にしたいとの意見が挙げられた。

岩手

- ・フリースタート形式について、運営の管理は楽だが、競技者の緊張感がなくなってしまう微妙である。
- ・フリースタート形式について、チェイシングのような走りができて楽しかったが、大会のコンセプトとしてはあってはいない。
- ・一般クラスは必要ないと思う。チャレンジクラスは収支拡大のために開催してもいいと思う。

岩手県立

フリースタートがよいと思う

金沢

- 一般クラス（選手権とは違うコース）を作るか
(作ったときにロングと同時開催は難しいのでは?)
インカレプリントを単独で開催するのであれば一般クラスはあったほうが良いが、今回のように他部門と同時開催であれば必要はない。
- チャレンジクラスについて
 - ・選手権に出られなかった人にとって自分がどの位置にいるのかという指標になり、翌年以降のモチベーションになる。
 - ・観戦ガイドはチャレンジクラスに有利ではないか。隔離もあってもいい。
- チャレンジクラススタート方式について
 - ・(同時開催の場合)フリースタートの場合、モデルイベントに融通が効くのでフリースタートがよい。

金沢工業

時間差スタートが望ましい

一般クラスは必要ない

新潟

○多数意見

☆チャレンジクラスは必要、一般クラスは不必要

- ・エリート以外もスプリントのコースを走りたい。
- ・走りたい人が走ればよい。
- ・ミドルやロングはエリートのコースは走れないので、せめてスプリントだけでも走らせてほしい。
- ・運営側としてもたくさんの人に走ってもらいただろう。

○少数意見

☆チャレンジクラスも一般クラスも不必要

- ・少数の競技者と多数の観戦者というのがスプリントの醍醐味である。
- ・スプリントに重きを置いていない（一般的な学生の価値観）ので、エリートになれなかったら、走る意欲も必要もない。
- ・ロングに付随するなら、次の日以降の負担も考えて、エリートだけでよからう。
- ・スプリントは駅伝みたいなもの（まわりから応援がある）だから、選ばれた人だけが走ればよい。
- ・運営の負担となるのは明らかで、質が落ちるくらいなら、エリートだけでよい。

☆一般クラスは必要

- ・インカレとしてやるなら、ミドルやロングと同様、学生全員が走れる環境を提供してもらいたい。

実践女子

*一般クラスはあってもなくてもいいが、競技者がもっと増えないと参加しにくい気がする。フリースタート、時間差にしろ、モデルイベントに影響がないようにしてほしい。

*チャレンジクラスは運営者の負担を軽減できるフリースタートで良いと思う。一般クラスはモデルイベントに影響がない範囲で行えるならあってもいいと思うが、運営者への負担や参加人数を考慮しないとイケないと思う。

*一般クラスを設けるなら時間差スタートがいいが、一般クラス自体は必要性を感じない。チャレンジクラスは今回のような形でいいと思う。

*チャレンジクラスは今回のような形でいいと思う。一般クラスは別に必要ないと思う。

*チャレンジクラスは運営者の負担が少ない形で行ってほしい。

横浜市立

チャレンジ、一般クラスはあって良いと思う。スプリント参加者が少ない状況を打破するためにはそういった場の提供が必要だと思う。スタートはチャイマーを設置して前走者と1分は空けるように指示したフリースタートが良いと思う。

相模女子

- ・チャレンジクラスはフリースタートでもよいと思う。
- ・スプリントのほうが好きなので一般クラスがあれば走りたい。

お茶の水女子

運営者の負担を少しでも減らすべきだと考えているので、チャレンジクラスはフリースタートで良いと思います。

一般クラスは参加者が少ないことが予想されるので必要ではないと思います。

茨城

スタートの仕方はどちらでも良いと思いますが、チャレンジクラスはあった方が良いと思います。なぜなら、速い人と同じコースを走ることによって自分の実力を知ることができるからです。

慶応義塾

一般クラスは必要ないと思う。

今回同様、チャレンジクラスを設ければ十分。

また、その際にはフリースタートの方が良いと思う(少なくともインカレ併設の線で検討する場合は、やはりモデルイベント等の関係があると思うので)

筑波

チャレンジはいいが、一般は運営負担がでかいのではないかな。

もっとチャレンジクラスとの共存の仕方があったのではないかな、観戦ガイドにルートまで載せてしまったら、それを見た人はチャレンジを走る意味を見失ってしまう。

一般だけでチャレンジクラスはやらなくてもいいのでは？

東京農工

チャレンジクラスは参加者がいなかったため、意見が出ませんでした。スプリントの一般クラスに出たかったという人もいたため一般クラスはあったほうが良い遠いもいます。

一橋

チャレンジクラスのスタートは運営者の負担やモデルイベント時間との兼ね合いを考えると柔軟に対応できるフリースタートで良いと思う。

一般クラスについては時間的制約や新しくコースを作る必要があること、そもそもチャレンジクラスが設けられていることから必要ない。

東京

- ・フリースタートのチャレンジクラスのみがよい

横浜国立

運営が負担と感じるならばそもそもチャレンジクラスの必要はないと感じる。

モデルイベントと同日に行うならばチャレンジクラスが存在がモデルイベントに与える影響も少なく無いということも考慮して、必要性はあまり感じない。

インカレの一角としてスプリントを掲げ、スプリントの重要性をきちんと日本のオリエン界の中で高めていく必要があると感じているのなら、フリースタートという方式は日本の中で更に「スプリントはオマケ」という風潮を高めていくことに繋がりにかぬない。一般クラスを開設するなら開設するでインカレとしてきちんとした運営を行うことが大学生最高の舞台という権威を高め競技全体の質の向上にも繋がると考える。

東工大

チャレンジクラスはフリースタートでよいという意見がほとんどだった。理由としては、

- ・運営者の負担削減のため。
- ・翌日に行われるロングにむけたモデルイベントもあるので、あまり時間的拘束があるのはよくない。

またチャレンジクラスについて、あらかじめ配られている観戦ガイドにルートなどが書かれており、競技としての意義は薄れていると感じる、という意見もあった。

一般クラスは設けなくてよいという意見がほとんどだった。

十文字女子

- ・チャレンジクラスは必要であると考え。運営者の負担軽減のためフリースタートでよいと思う。
- ・一般クラスは運営者の負担を考えると必要ないと思う。

千葉

ロング前日開催の場合、運営の負担、タイムスケジュールを考えるとチャレンジクラスを設けフリースタート形式が一番良い。一般クラスは設ける必要はない。

椛山女学園

学生トップと比較することができるため、一般クラスを設けることには賛成

静岡大学

チャレンジクラスは必要だと思う。また、それはフリースタートでいいと思う。

名古屋

- ・必要,フリースタート...42%
- ・必要,スタートリスト...28%
- ・不必要...27%
- ・わからない...3%

チャレンジクラについて

参加する気はなかった...60%

参加を考えたが、モデルイベントと重なっていたため出場しなかった...29%

参加を考えたが、参加費が高かったため出場しなかった...10%

チャレンジクラスが存在を知らなかった...1%

- ・必要とまでは言い切れないが、自分が選手権クラスに漏れた場合は走って見たい、あとは値段次第
- ・参加費が高い
- ・900円までなら参加するが、それ以上は高い

京都

時間差スタートが良い

- ・フリースタートでは公平性がないのではないかと。少なくとも計時はしてほしい。

フリースタートが良い

- ・ロング前日に行うのであれば、モデルイベントとの兼ね合いもあるのでフリースタートが良い。
- ・スプリントはまだ面白さが理解されていない種目である。そのため、エリートが走っているのを見て、「面白そう」と感じたものが自由に当日参加できるシステムが望ましい。そのためには、フリースタートの方が都合が良いのではないかと。事前申し込みは不要。

大阪

チャレンジクラス、フリースタートでいいと思う。(チャレンジクラスに参加していない人からの意見)

理由：チャレンジクラスがあることでエリートの速さを実感できる。

奈良女

- ・今回同様チャレンジクラスを用意。フリースタートでよい。

京都女子

- ・時間差スタートが良いと思う。
- ・一般クラスは不要。

広島

一般クラスはあってもよいと思うが、運営者の負担等を考えるとチャレンジクラスのみあれば十分だと思うという意見が多かった。スタート形式も運営の負担を減らすためにフリースタートでよいと思う。ただし運営者の負担は減る分、演出には力を入れてほしいという意見もあった。

4、エリート人数について

宮城学院女子

- ・今回の男子60は多かったので45で、女子は今回同様30が良いと思う。

東北

- ・今回と同じ人数が適切ではないかとの意見が多かった。

岩手

- ・今後も今回と同様でよいと思う。

金沢

- ・女子が後にスタートだったが、スタートまでの待ち時間は負担になった。
- ・今年の参加意欲が試行大会でなくて、正式大会になっても今回のような参加意欲なら減らすべき

金沢工業

今回は多いと感じたので男子50女子25でよい。

新潟

○全部員の共通意見

☆枠を減らすべき

- ・試行大会は長かった。人数を減らして、時間短縮を。
- ・モデルイベントに入る時間が少なくなってしまう。
- ・人数をしばって、ハイレベルのレースを見たい。(レースにしたい)
- ・枠が少ないほど、大会の価値はあがる。(競争が激しくなるため)
- ・男50 女25 ・男30 女15
- ・男40 女20 ・男20 女10

実践女子

- *男子出走後女子だったので、人数は多く感じた。
- *もっと少なくしても問題ないと思う。
- *男子は少し多かった印象があるので減らしてもいいと思う。

横浜市立

男子についてはあまり分からないが、現時点では女子は20人が適切だと思う。インカレ前までのスプリント人口の増減をみて判断すればいいのではないかな。

相模女子

- ・今回はスプリントセレを必要としないくらい人数が多かったのもう少し減らしてもいいと思う。男子40、女子20くらい。
- ・各学連の過去の成績で配分する人数を決めるのはこれまで通りでよいと思う。

お茶の水女子

今回は男女ともに多かったと思います。関東学連では女子の枠が余ってしまい、追加募集をかけました。男子45人、女子20人くらいが良いのではないのでしょうか。

茨城

あんまり多くても誰でも通ってしまうし、あんまり少ないと初めから無理だと思ってやる気をなくしてしまう人もいるかもしれないので、普通くらいのレベルの人がぎりぎり通るか通らないかの人数がいいと思います。

慶応義塾

今回の人数でいいと思う

筑波

今回も枠が余ったのもあり、もっと少なくてもいいのでは。

東京農工

今のままで十分との意見が多かった。

一橋

男女ともに多かったと思う。チャレンジクラスの人数を見るとスプリントを走りたいという人は多数いると考えられるが、モデルイベントの時間が限られ、人が溢れてしまっていたのでもう少しインカレスプリントに割く時間を短くしても良いと思う。選手権に出れる人は減ってしまうが各学連でセレクションを行う以上「学生トップを決める」という趣旨には反しないはずである。

東京

- ・男子は 30~50、女子は 15~20 程度がよい。

横浜国立

インカレスプリントを他のインカレと比較しても遜色の無いイベントとして扱うのなら今回の枠でちょうど良いのではないかと考えるが、これ以降もインカレロングに付随するあくまで副次的要素の強い大会として扱っていくのならば枠をもう少し縮小して男子 45、女子 20 ほどの枠に絞って行っていくほうが競合率も高くなる上に他のスケジュールに響きにくくなりイベントとしての価値は高くなるのではと考える。

東工大

今回は参加者数が多すぎたと感じる。

男子 40 女子 15 程度がよいのではないかと。

十文字女子

- ・今回同様の人数でいいと思う

千葉

今回、枠が余り気味だったことを考えると男女ともに枠を減らしても良いと思うが、今後スプリントに対して積極的な選手が増えた場合も考えると、このままでも良い。

椛山女学園

- ・人数は今回のままでよいとは思いますが、観戦者からすると少し長いように感じた

名古屋

- ・男子はもう少し減らしてもよいのでは

という意見がでたが、現行のままで問題ないという意見がほとんどであった。

京都

多すぎる

・スプリントへの興味関心が低いため、枠が多すぎると選考が意味をなさない。誰でも通ってしまう。

大阪

妥当

奈良女

・今回と同じでいいと思う。

京都女子

男子 50 人、女子 35 がちょうどよいと思う。

5、隔離エリアについて

宮城学院女子

・ウォーミングアップのスペースは少し広くしてほしかった。また、ゴールが見えていたのでもまだ走っていない選手に見えないようにする工夫は必要だと感じた。

東北

・隔離の場所から実況のアナウンスが聞こえ、おおよそのタイムが分かってしまったので、出来れば会場から離れたところに隔離して欲しい。

・ウォームアップエリアが狭かった。

・女子の隔離時間が長すぎるのではないか

岩手

・アップエリアが狭い。

・フィニッシュのタイムなど、一部の競技情報情報が放送されていたが、それが隔離エリアに聞こえてくるのはまずいと思う。

金沢

・演出が隔離エリアまで聞こえたのは公平性に影響しないのか。

・去年の試行大会に比べるとウォーミングアップエリアが広く、今年くらいほしい。

・ウォーミングアップエリア狭い。

・ウォーミングアップエリアからラスポアタックが見えた。

金沢工業

隔離の場所は特に問題なかった。

新潟

☆隔離自体は肯定的

・アップエリアが狭すぎる。

・駐車場がアップエリアなのはやめてほしい。

・アップをメインに考えてほしい

横浜市立

ウォーミングアップエリアが狭かったので、もっと広いところを使いたい。可能なら会場から離れた場所に隔離エリアをつくる方が、気持ちが高まって良いと思う。

お茶の水女子

観戦者から完全に隔離されているわけでもないけれど、よく見えるわけでもなかったのが隔離エリアとしては少し半端な印象を受けました。WEではアップをしている人はいなかったそうです。隔離エリアから角度によっては1ポが見えたので、不公平だったと思いました。

慶応義塾

隔離エリアが狭かった。

筑波

ウォーミングアップエリアが狭かった。

もう少し離れたほうがいいのではないかと、やろうと思えば競技情報を得ることができると思った。

東京農工

隔離時間が長すぎた。ウォーミングアップしても時間が充分余った。

一橋

隔離エリアでのウォーミングアップが可能であったほうが良い。

場所とは関係がないが隔離のタイミングをもう少し遅らせても良いのではないだろうか。

東京

- ・実況が聞こえるのはあまり良くなかった。
- ・ゴール付近での声が聞こえてきてしまったので、もう少し離れた場所が良いと思う。

横浜国立

隔離エリアは適当だったと感じる。そもそも隔離エリアに関しては、運営側が最善の判断を行い設置していると考え、不満があった場合にはそれは地形や会場の都合で仕方が無いものであるだろうと判断する。

東工大

隔離エリアと観戦エリアが近すぎたように感じる。

できれば隔離エリアでウォーミングアップができるようにしてほしい。

椙山女学園

- ・屋内スペースは適当
- ・ウォーミングアップエリアが狭い
- ・ウォーミングアップエリアからスタートフラッグが見えてしまっていたので不適切
- ・した一とに時間差のある未出走の選手が既に出走した選手の選手の結果を知ることができたことは、競技の公平性に欠けている

名古屋

満足,やや満足,どちらともいえない,やや不満,不満、の5段階で評価してもらったところ

満足...0%,やや満足...50%,どちらともいえない...50%,やや不満...0%,不満...0%

であった。

具体的な意見としては、

- ・アップの場所が少し狭かったけど許容範囲内
- ・ウォームアップエリアがもう少し広いとうれしい
- ・スタート前は人が多くなり、場所が狭いように感じた
- ・欲を言えば、靴を脱がずにトイレや荷物置き場に行ける場所が良い

京都

隔離するならちゃんと隔離するべき。今回はゴールが見えた。

トレーニングするスペースが足りない。

可能であれば、体育館のようなウォーミングアップもできて外の音も遮断できるところが良い。今回は実況の声が聞こえていて情報に差があった。

大阪

待機所：待ち時間が長い。オフィシャルを入れてほしい。

京都女子

隔離の時間が長いと感じた。

ウォーミングアップの時間は十分にあった。

6、その他

東北

・今回の議論など、今までの一連の議論を通じて、運営側の負担が大きすぎるとの意見が挙がった。そのことから、競技の公平性に問題が出ない範囲であれば、もっと現役学生を活用しても良いのではないかと(現実的には難しいかもしれませんが…)、インカレとして成功させるには運営面でも手を取り合うことが必要だとの意見が見られた。

岩手

- ・セレクションの関係上、各学連への枠の分配は早めに行ってほしい。

新潟

- ・非エリートが暇であった。
→エリートの競技とモデルイベントを並行してやるべき。
- ・運営と学生の考えの乖離が甚だしいと思う。
- ・日本学連の幹部の人たちはインカレプリントに賛成なのか、反対なのか。
- ・スプリントリレーをやってみたら、面白いのではないかと。

・学生はロングとミドルを意識して、スプリントには無関心な傾向があるのを鑑みてほしい。

実践女子

*観戦エリアの自由さやI C L前日という日程などからほかのインカレに比べ競技より祭りというイメージが強かった。競技をした選手、他の観戦者はどう思っていたか気になる。

東京

・チャレンジクラスの参加費のほうが安いのはおかしい。選手権に出るべき人が選手権に出なくなるので、同額もしくは少し高めにすべき。

・観戦のための整備にお金がかかるのであれば、学連加盟費を値上げしてインカレスプリントの開催費にあてることで間接的に観戦者からもお金をもらうなどをしてもいい。

横浜国立

今回当大学は交通渋滞の関係で観戦することが全くできなかったものの、試行大会に出走した選手の意見としては、確かに試行大会であることの限界は推し量れるがそうであったとしてももう少し緊張感のある価値ある大会として開催して欲しかったという声が挙がっている。

またさらに、表彰に関しても、ロングの表彰式のおマケのような形で表彰している感覚が否めず、スプリントの存在意義を高めていくためという本来の大会の設置の意義に沿っているのか疑問を抱くような構成になっているという意見もあった。

千葉

観戦側として、男子クラスが長く、途中でだれてしまった。女子の選手を楽しみにずっと待っていた人もいる。男女交互スタートでもよいのではないか。

臨時幹事会資料

インカレスプリントアンケート結果まとめのまとめ

1、来年度の開催について

賛成

宮城学院女子、東北、岩手、岩手県立、金沢、金沢工業、新潟、実践女子、横浜市立、相模女子、お茶の水女子、茨城、慶応義塾、東京農工、一橋、東京、横浜国立、東工大、十文字女子、千葉、早稲田、椛山女学園、静岡、名古屋、京都、大阪、奈良女、広島

反対

新潟(少数)、東工大(少数)、京都女子

ロング前日

宮城学院女子、東北、岩手、金沢、金沢工業、新潟、実践女子、横浜市立、お茶の水女子、茨城、東京農工、一橋、東京、東工大、十文字女子、千葉、早稲田、静岡、京都(少数)、大阪、奈良女、広島

ロング翌日

椛山女学園、京都、奈良女

独立開催

金沢、新潟

2、観戦ガイド、観戦エリア、演出について

—観戦ガイド—

- ・観戦ガイドにルート解説が書いてあって見ごたえがあった
- ・ルート比較があったのが良かった
- ・観戦ガイドに観戦エリアをいくつか指定してほしい→その方が応援が盛り上がる
- ・チャレンジクラス参加者の中には、見たくない人もいるため、配り方に注意が必要ではないか
 - ・今回、スプリント参加者が翌日のロングで有利だったのではないか。
 - ・地図回収はしなくてよかったのか？
 - ・ルートまで書くものではない
 - ・会場についたときにはなくなっていたのもう少し枚数が欲しかった

—観戦エリア—

- ・競技者の近くで見られるのでよかった
 - ・観戦者に見られているエリアが広く、盛り上がり・緊張感があって良かった。
 - ・制限しなくてよい。目指すのは世界水準のスプリントである。海外では観光客がいる中

を走る

- ・観戦者のモラルはもう少し正すべき
- ・競技エリアとは別にしてほしい→ルートの妨げになっていた
- ・観戦エリアはある程度制限する必要がある→運営者や観戦者の配慮次第で十分避けられる問題？
 - ・コントロールの周りに人がいては、選手はやりにくい。
 - ・一般人との接触が危険→観戦エリアと一般客の集中している場所を離れたほうがよい
 - ・テープで境界線を作るなどしてわかりやすくしたほうがよい
 - ・コントロールに接近しすぎない工夫が必要

—演出—

- ・ゴール周辺しかなかったのが残念。聞こえなかった。
- ・アナウンスやディスプレイ等でゴール地区から離れていても速報が分かるようになっているとより楽しめた
- ・運営側が用意した観戦エリア内ならどこでも実況が聞こえるように、スピーカー等を用意して欲しい。
- ・シード選手だけでも GPS をつけてほしい。それだけでなく、ランダムで何名かにつけるとよいかも。

3、チャレンジクラス、一般クラス

—チャレンジクラス—

フリースタート

宮城学院女子、東北、岩手県立、金沢、新潟、実践女子、相模女子、お茶の水女子、慶応義塾、一橋、東京、東京工業、十文字女子、千葉、静岡、大阪、奈良女子、広島

- ・チャレンジクラスはあってもいいが、モデルイベントと時間がかぶっていたためチャレンジクラスをみるができなかったので時間と人数を考えた方がいい。
- ・速い人と同じコースを走ることによって自分の実力を知ることができる
- ・時間差スタートでは時間がかかりすぎ、モデルイベントに十分な時間が割けない
- ・併設クラスではそこまで競技性を求めず、負担をできる限り軽くすべき
- ・収支拡大のために開催してもいい
 - ・選手権に出られなかった人にとって自分がどの位置にいるのかという指標になり、翌年以降のモチベーションになる。
 - ・チャイマーを設置して前走者と1分は空けるように指示したフリースタートが良い
 - ・競技としての意義は薄れている

臨時幹事会資料

・必要とまでは言い切れないが、自分が選手権クラスに漏れた場合は走って見たい、あとは値段次第

- ・参加費が高い
- ・900円までなら参加するが、それ以上は高い
- ・スプリントはまだ面白さが理解されていない種目である。そのため、エリートが走っているのを見て、「面白そう」と感じたものが自由に当日参加できるシステムが望ましい。そのためには、フリースタートの方が都合が良いのではないかと。事前申し込みは不要。

時間差スタート

金沢工業、京都女子

- ・フリースタートでは公平性がないのではないかと。少なくとも計時はしてほしい。

岩手

- ・フリースタート形式について、運営の管理は楽だが、競技者の緊張感がなくなってしまう微妙である。
- ・フリースタート形式について、チェイシングのような走りができ楽しかったが、大会のコンセプトとしてはあってはいいない。

筑波

- ・もっとチャレンジクラスとの共存の仕方があったのではないかと、観戦ガイドにルートまで載せてしまったら、それを見た人はチャレンジを走る意味を見失ってしまう。

横浜国立

- ・運営が負担と感じるならばそもそもチャレンジクラスの必要はない

— 一般クラス —

いる

宮城学院女子、新潟(少数)、横浜市立、相模女子、東京農工、椛山女学園

- ・スタートリストを作ってほしい(30秒おきでよい)
- ・インカレとしてやるなら、ミドルやロングと同様、学生全員が走れる環境を提供してもらいたい。
- ・スプリント参加者が少ない状況を打破するためにはそういった場の提供が必要だと思う。

いない

東北、岩手、金沢工業、新潟(多数)、実践女子、お茶の水女子、慶応義塾、一橋、東京、東京工業、十文字女子、千葉、京都女子、広島

- ・モディベの時間を大切にしたい
- ・運営者の負担は減る分、演出には力を入れてほしい

金沢

インカレスプリントを単独で開催するのであれば一般クラスはあったほうが良いが、今回のように他部門と同時開催であれば必要はない

新潟(少数)

☆チャンレンジクラスも一般クラスも不必要

- ・少数の競技者と多数の観戦者というのがスプリントの醍醐味である。
- ・スプリントに重きを置いていない（一般的な学生の価値観）ので、エリートになれなかったら、走る意欲も必要もない。
- ・ロングに付随するなら、次の日以降の負担も考えて、エリートだけでよからう。
- ・スプリントは駅伝みたいなもの（まわりから応援がある）だから、選ばれた人だけが走ればよい。
- ・運営の負担となるのは明らかで、質が落ちるくらいなら、エリートだけでよい。

横浜国立

・インカレの一角としてスプリントを掲げ、スプリントの重要性をきちんと日本のオリエン界の中で高めていく必要があると感じているのなら、フリースタートという方式は日本の中で更に「スプリントはオマケ」という風潮を高めていくことに繋がりがかねない。一般クラスを開設するなら開設するでインカレとしてきちんとした運営を行うことが大学生最高の舞台という権威を高め競技全体の質の向上にも繋がる

4、エリート人数について

多かった

宮城学院女子、金沢工業、新潟、実践女子、お茶の水、筑波、一橋、東京、東京工業、十文字女子、京都

- ・試行大会は長かった。人数を減らして、時間短縮を。
- ・モデルイベントに入る時間が少なくなってしまう。
- ・人数をしばって、ハイレベルのレースを見たい。（レースにしたい）
- ・枠が少ないほど、大会の価値はあがる。（競争が激しくなるため）
- ・観戦者からすると少し長いように感じた

ちょうど良かった

東北、岩手、東京農工、千葉、椛山女学園、名古屋、大阪、奈良女子

- ・今後スプリントに対して積極的な選手が増えた場合も考えると、このままでも良い

金沢

- ・今年の参加意欲が試行大会でなくて、正式大会になっても今回のような参加意欲なら減

らすべき

横浜市立

- ・インカレ前までのスプリント人口の増減をみて判断すればいいのでは

横浜国立

インカレスプリントを他のインカレと比較しても遜色の無いイベントとして扱うのならば今回の枠でちょうど良いのではないかと考えるが、これ以降もインカレロングに付随するあくまで副次的要素の強い大会として扱っていくのならば枠をもう少し縮小して男子 45、女子 20 ほどの枠に絞って行っていくほうが競合率も高くなる上に他のスケジュールに響きにくくなりイベントとしての価値は高くなるのでは

5、隔離エリアについて

- ・屋内スペースは適当

- ・可能なら会場から離れた場所に隔離エリアをつくる方が、気持ちが高まって良いと思う。
- ・ウォームアップエリアが狭かった。
- ・演出が隔離エリアまで聞こえたのは公平性に影響しないのか。
- ・駐車場がアップエリアなのはやめてほしい。
- ・隔離エリアから角度によっては1ポが見えたので、不公平
- ・隔離時間が長すぎた
- ・欲を言えば、靴を脱がずにトイレや荷物置き場に行ける場所が良い
- ・体育館のようなウォーミングアップもできて外の音も遮断できるところが良い
- ・オフィシャルを入れてほしい

- ・そもそも隔離エリアに関しては、運営側が最善の判断を行い設置していると考え、不満があった場合にはそれは地形や会場の都合で仕方が無いものであるだろうと判断する

6、その他

- ・すべて世界基準に合わせるのではなく、日本独自のやり方をすべき。まして、オリエンテーリング（スプリント）の認知が広がっていないのだから。
 - ・大会独特の空気の緊張感などがあまり感じられず、また更に競技中競技エリアに競技者以外の人間が多くいたことなどで非常に気が散り、大会らしさが感じられず来年から開催されるインカレとしてのスプリントの指標として評価するにはいささか質が低い
- もっと凜とした空気の中で行われるべき
- ・表彰はスプリント終了後に行う方がいい

東北

- ・今回の議論など、今までの一連の議論を通じて、運営側の負担が大きすぎるとの意

臨時幹事会資料

見が挙がった。そのことから、競技の公平性に問題が出ない範囲であれば、もっと現役学生を活用しても良いのではないかと(現実的には難しいかもしれませんが・・・)、インカレとして成功させるには運営面でも手を取り合うことが必要だとの意見が見られた。

岩手

- ・セレクションの関係上、各学連への枠の分配は早めに行ってほしい。

新潟

- ・非エリートが暇であった。
→エリートの競技とモデルイベントを並行してやるべき。
- ・運営と学生の考えの乖離が甚だしいと思う。
- ・日本学連の幹部の人たちはインカレスプリントに賛成なのか、反対なのか。
- ・スプリントリレーをやってみたら、面白いのではないかと。
- ・学生はロングとミドルを意識して、スプリントには無関心な傾向があるのを鑑みてほしい。

実践女子

*観戦エリアの自由さやICL前日という日程などからほかのインカレに比べ競技より祭りというイメージが強かった。競技をした選手、他の観戦者はどう思っていたか気になる。

東京

- ・チャレンジクラスの参加費のほうが安いのはおかしい。選手権に出るべき人が選手権に出なくなるので、同額もしくは少し高めにすべき。
- ・観戦のための整備にお金がかかるのであれば、学連加盟費を値上げしてインカレスプリントの開催費にあてることで間接的に観戦者からもお金をもらうなどをしてほしい。

横浜国立

今回当大学は交通渋滞の関係で観戦することが全くできなかったものの、試行大会に出走した選手の意見としては、確かに試行大会であることの限界は押し量れるがそうであったとしてももう少し緊張感のある価値ある大会として開催して欲しかったという声が出ている。

またさらに、表彰に関しても、ロングの表彰式のおマケのような形で表彰している感覚が否めず、スプリントの存在意義を高めていくためという本来の大会の設置の意義に沿っているのか疑問を抱くような構成になっているという意見もあった。

千葉

観戦側として、男子クラスが長く、途中でだれてしまった。女子の選手を楽しみにずっと待っていた人もいる。男女交互スタートでもよいのではないかと。

インカレスプリント実施に向けたアンケート

2014年度インカレロング前日に行われた2回目のインカレスプリント試行大会を経て、来年度に第1回インカレスプリント本大会を行う計画で今年度中にその準備を進める。本アンケートは「インカレスプリントの持続可能な開催」のためにインカレスプリントがどのような大会であるべきかについて、全加盟員の意見・アイデアを集約することを目的とする。

・まずはじめに・・・。

<来年度第1回インカレスプリントを開催することに賛成or反対？開催日はロング前日？>

賛成 or 反対とその理由、開催日についての意見を以下に記してください。

例) ・賛成。今回同様ロング前日の開催がいいと思う。 など

学校名：

・観戦、演出について

<観戦ガイド、観戦エリア、演出はどうでしたか?>

選手の立場からも観戦者の立場からも意見をよろしくお願いします。

例) ・観戦ガイドにルート解説が書いてあって見ごたえがあった。

・観戦者がルートの妨げになっていたのもう少し観戦エリアを限定した方が良い。

学校名：

・チャレンジクラス、一般クラスについて

<チャレンジクラスはフリースタートか時間差スタートどちらが良いですか？一般クラスは必要だと思いますか？>

チャレンジクラスについて、今回のようにフリースタートにするか、スタートリストを作る(1分おき or 30秒おき)のとどちらが良いと思いますか？

また、一般クラスが必要かどうかについても、意見ををお願いします。

例) ・チャレンジクラスは運営者の負担削減のためフリースタートでよいと思う。一般クラスについては時間の制約もあるので必要性を感じない。

・そもそもチャレンジクラスも必要ない。 など

学校名：

・エリート的人数について

<エリート的人数、男子何人、女子何人が適当だと思いますか?>

正式にインカレスプリントとして始動するのなら、ロング、ミドルと同様、各学連に枠を配分することになります。エリート的人数について男女それぞれ何人が適当か、意見をお願いします。

例) ・今回の男子 60 女子 30 は多かったので、男子 45、女子 20 でよい。 など

学校名：

・選手の隔離エリアについて

<隔離の場所は適当でしたか?>

主にME、WEを走られた方、選手の隔離について意見をお願いします。

例) ・隔離エリアでウォーミングアップができるようにしてほしい。

・会場から離れた場所に隔離した方が良いと思う。 など

学校名：

<自由記述欄>

ここまでで書ききれなかった意見、その他の意見などありましたら自由に記述してください。

学校名：

インカレスプリント正式立ち上げにあたっての実行側立場の者(3名)の論点整理

【山川】学連メールにて

=====

【総会決議の意味】

学連の主要行事の開催の是非について総会決議を取ることの意味を今一度かみ締めて下さい。基本的に皆の代表である幹事中心に上の役の人たちで決め事は行っていくわけですが、その中でも大きな行事、大きな予算の執行については総会決議を要するとしています。それはとりもなおさず、その決定に学連に関わる人全員で”責任”を持つということでもあります。

そして決定したからには、それが継続しないと全く意味を成しません。一回できればいいね、という問題ではないのです。特にスプリントという町や施設の中で行う競技なので、その点のハードルや山競技の場合と大きく異なります。

(渉外面でのハードルが高いのはどちらも同じですが、性質が大きく異なるということ)

【不作為の責任】

昨年度(山本幹事長時代)の幹事会・総会で私が何度もポイントとして上げたスローガンです。もはや今の世界情勢の中でスプリント種目の公式競技化に見ない振りをするのはもう無い流れでしょう。昨夏の海外遠征チームから、日本の取り組みはこれで良いのか? という問いかけから始まって、9月幹事会で突然の切り出し、10月総会で議論に乗せ、翌3月の実験大会開催までこぎつけたものの、ミドル&リレー実行委員会にとっては降って湧いた大ごとで、独自に開催する道しかなかったのですが、大雪の影響もあって本業の方も大きく影響を受けていたので、スプリントに割ける時間はさらに少ないものになり、あのように超バタバタの運営になりました。結局、ずっと不作為でいたことに風穴を開けたということではなかったかもですね。学連も30年以上の歴史を積み重ねていますから、初期の頃のようにそうそう強引なことでもできず、皆が納得できるような運営を示してから改めて考えようということでもう一度試行大会を開催することとなりました。(6月の東大大会で臨時で総会を集めておきながら至った結論)

さて、それで今の世界の情勢の中で、学連はインカレスプリントを公式に立ち上げるか否かの公式決定を迫られているわけですが、否決に回るにしても否決するにたる合理的な理由が必要です。ただ大変だからとか行かないからとか財政的に見合わないからだけが理由では合理的に足る理由とはいえません。なぜなら、これもオリエンテーリングの一種目だからです。学連やインカレの継続性の観点からやらない方が正しいということをちゃんと説明できないといけない訳ですね。説明できないのであれば、目の前にある障害は乗り越えなければいけない課題ということになります。それが実は結構大きな壁なので、深い議論が必要になってきます。今回の試行大会では、運営はそれこそきっちりやるぞと気合を込めて準備しましたので、やっと加盟員の皆さんもフランクな議論の場に立ってもらったと考えています。3月のはそういう環境に自分を追い込んでいったのも反省点ですが、一人で全部抱えては、この種のイベントは決して成功しません。今回の試行大会は地図もコースも別の人中心で自分は外からコントロールできる立場であったのもとても良かったと考えています。(それでも作図の整合性についてはファイルを提出してもらってから細かすぎる表現とかコントロールしまくりでした。これらの作業は1週前を切ってからで、しかも思いの他多くの時間を要しました。)

【全日本との併催はもう無い】

昨年の幹事会・総会資料でも何度も展開しましたこととおさらいしておくと、5年前に学連は一旦インカレスプリントの開催を否決しています(幹事会レベル)。その時の流れが、全日本との共催路線だったのですが、その路線選択が今となっては正しい選択ではなかったようにも思います。当時の担当者間ではそういう議論の流れだったのですが、学生の実質が伴ってこなかった。「学生の部」としてしばらく一緒にさせて頂くことで灯を消さずにおこうという選択をしたのですが(お互いに経費的には持ちつ持たれつになることを目論んで)、結局年数を重ねるに従って却って主管県協会に学連は大きな迷惑を掛けてしまうことになり、昨年度からその道はやめています。学生の中で価値を見出せないものは結局継続不可ということなのですが、迷惑を掛ける前にもう少し早く決断しておくべきだったかなとも今思っています。インカレスプリントをやるならやるで、学生の中で他の種目と同様に価値があり同じように選手権を目指す、同じように応援してもらえる、そういう大会でなければなりません。

【一番の価値は何なのか?】

とは言ってみたものの、インカレスプリントの継続開催には大きな壁がいくつも立ちはだかります。それらを全部解決しなければならないとなると、回答は明らかに”開催不可能”になってしまいます。(a)絶対譲れない最大価値、最大判断基準となる事項、(b)最大努力はするが、そこそこで解決する問題、(c)ほとんど目をつむってあえて突っ込まない問題、これらに切り分けて解決していかないと継続性は見えてきません。上のアンケートの自由欄ではこの辺にまで、それぞれが考えていることを述べていただければと思います。

学連としては、学生の大会のなのですから最大価値は

「大勢の中で見られている、大勢の応援がある、皆の代表として走る」

そういう環境こそが一番大切であると私は考えています。皆さんはどうですか?

今JOAニュースとかで語られているスプリントの競技性(公正さ)という観点も最大努力はするにせよ、上の分類アイテムでいうと(b)であるという考え方です。今回の試行大会でも人の障害という点では必ずしも公正公平は競技を提供で

きたとは言えないものでした。しかしそこでこれ以上ハードルを上げてしまっは、そのことが継続性の障害になってしまいます。ルートチョイスの多様性についても同様です。

【想定される問題】

まあこう書いていても、来年のことが議論のあとから初めて準備するわけではなく、私レベルでは勿論水面下で本当にできるのかどうかそれなりに動いているわけですが(ダメな場合の次善策も当然打ちます)、今後いくつかの問題が想起されます。それらについても特に大きな問題で想起されるものについては今回の総会までに加盟員レベルでも議論できていればと思っています。(アンケートの自由欄に忌憚なく思っていることを記入していただければ幸いです)

1. ロングとは別会場でインカレスプリントを行わざるを得ない場合

インカレスプリントを継続してやると決めたら、それが優先アイテムになります。モデルとか開会式とかテクニカルミーティングより上位の優先順位にくるということですね。もちろん人が集まる場所でしか意味がありませんから、ロング会場から近くで探すということになります。その時にモデルがなくなるかもしれない、ということですし、別会場になった時に余計にかかる経費についても学連はちゃんと考えないといけないということになります。

ミドル前日という選択肢もありますが、モデル開会式とあわせてスプリントでは、そもそも同日に3つもの重要イベントできるのかという感想を強く持ちました。おまけにミドル&リレー実行委員会の仕事量にさらにスプリントを加えるのは、現実的に相当厳しい、ロングの開会式はもっと簡略なものだし、やらない場合もあるので、ロングのモデルとスプリントなら並立可能という判断が今回もありました。(その時に、時間設計の基本的思想が違うトレイルは併設大会とはいえ、今回は3連休だったので別の日にやっていただくとしました)

2. 公正さの問題

翌週の全日本スプリントでも、アナウンスでどこまで競技情報をしゃべってよいのかという問題が若干あったような話を聞きました。今回の試行大会ではこのような情報は全部観戦ガイドの方に詰め込み、アナウンスでは競技に影響のあるような内容はしゃべらないということを事前に申し合わせていました。あの観戦ガイドは今後も必要欠くべからざるものとして位置づけていければよいかと考えています。加盟員の皆さんもこの点について、該当箇所で思うところを述べて下さい。人の障害による公正さの問題では、直の案件となったテニス場付近の話の他に会場付近のチョイス上ありえるルート上に観客が沢山いた件なども挙げられると思いますどこまでコントロールすべきかは非常に繊細な問題です。

3. 運営リソースの問題

さて私も他の仕事を中断してこのような長文を書いています。本件で学連内の推進役である山上実行委員長も大西技術委員長も平日は日が替わるまで勤務しているような状況でいっぱいの中で学連の仕事に当たってもらっています。(その点は前の西脇前委員長の時代から同じ、いやずっと前からそうかな)臨時幹事会までどこまで資料整備できるのかも怪しいのですが、正式会議の日は待ってられません。実は大きな問題があるのです。(今回のアンケートでもこの点についての設問はありませんので、自由欄でお答えいただけたらと思います)それは学生役員動員の是非についてです。これについては私と若手実行委員の世代とは大きく意見が異なっています。若手実行委員の間では、現役学生には競技に専念できる環境が必要ということで、OBの間で何とかすべきという意見が大勢です。私は、スプリントの安全管理公正さ管理の面で、当日の有人コントロールとかは学生であっても良いと考えています。環境によっては、森でのイベント以上に当日の運営で役員の動員が大勢必要なことは十分今後想定できます。それらをスプリントの実働時間のみ一部の学生を拘束して役員に当たってもらうことは是か非かという問題です。オリエンテーリング界では非という流れが多いようにも思いますが、陸上の世界では選手として出場出来ない者は普通に役員として使われます。この点オリエンテーリングでは一般クラス・全員参加という競技形態が考えに影響しているのですが、継続性に当たっては今一度考えたい問題です。加えて、OBのボランティア活力だけでは解決できない場面も今後十分想定できます。その時にはプロ資源に頼らないといけないのですが、その時の財政基盤についても議論しておきたいと思います。このことで都度総会を開くわけにはいきませんが(多分幹事会決議可能枠でスプリントなら解決できると踏む)、折角臨時総会を召集するので、予算の執行体制について一度は総会で取り上げておくべきかと考えます。

4. コントローリングの問題

スプリントイベントのコントローリングは、判断内容が森でのイベント以上に多岐に渡り、前述したようにすべてを採用するわけにはいきません。十分な経験と識見に裏打ちされた判断が必要で、今の技術委員会から派遣されるアドバイザー制度(これも最近では教育的配慮の側面が大きい)では走り出しは機能するとはとても思えないですね。この辺についても人材養成面も含めて突っ込んだ話し合いが必要な内容だと思います。自分が今回の試行大会のように現場に直に立たないのであればしばらくは必要な役割はこなせるかと。しかしその後のことを考えて養成面もプログラミングしないといけないことは言うを待たないです。

5. 初見ネタは結構重要

旧マップ(JSOM)があるというのはそれほど問題になりませんが、JSSOM 地図にしてこそ判るネタというのは初見で瞬断求めてこそこの競技の特質だと思います。今回の試行大会では1-2のレッグなどがそれに当たりますが、正解を知ってしまえば、それ以降のレースの興味は半減します。初見ネタであるということは、かなり重要なアイテムですが、それでも私のスタンスはJSSOMがある場所であっても、継続性こそが一番重要な判断材料であると考えています。

6. 世界でもまだ進化中の種目

私がこの種目の日本での国際大会に関わったのは、もう10年以上前の、立川の昭和記念公園で開催されたパークツアーでしたが、その頃強調されていたことと今強調されていることではかなり内容が変化しています。今後も今の価値観でずっと続くということは考えづらく、IOFの世界戦略(オリンピックに採用されるように)として位置づけられている、今後も変容していくことは十分に想定されます。我々も十分に外の世界にアンテナを張り、その上で学連として継続可能なスタイルを模索していくことになるかと思えます。

ということで、もっと3月10月の実例挙げて説明もしたかったのですがこの辺で私の提供可能な時間も限界です。加えて、6月の臨時総会前には十分は討議資料を用意できず申し訳なかったです。加盟員の皆さんは学連の将来、君たちの10年後の後輩になる人たちのことも考えて、しっかり考えて意見して下さい。よろしくお願いします。

続いて論点を今一度整理しておきます。

決めるのは山川でも幹事会でもない。総会が決める。決め方は多数決。
それは直の参加者である現役学生(他の組織のようにOBの理事とか評議員とかで決める訳ではないことの意味をよく考えて)

決めた以上はOBは協力する

可決否決どちらにも責任は所在、説明は合理的にできないといけない。
我々が抱えるべき論点はスプリント種目も他の種目と同様の価値を学生の中で創出できるか、キーワードは継続。価値はいきなりは産まれにくい。
継続を優先にすべてを満たすことは非常に困難な種目なのでアイテムには優先順位をつけざるを得ない。決するのであれば優先順位のことまで幹事会で議論を及ぼしておきたい。

ある程度やっても価値を創り出せないのであれば(ロングもミドルもリレーもインカレはそういう過程を経て今があることを認識すべき、1984年にリレーを

導入する時も、ショート(現ミドル)を入れる時も、ショートとロングを入れ替える時もかなり議論はあったし勿論反対意見もあった)、その時には撤退することには合理性があると考えます。まずは全力を尽くそうというのが今の自分の立ち位置ですが、学連はそれについてくるのかどうか、今ある価値を創ったのは誰か。(回答/解答は総会で)

こんなところで

【山上】【西村】

私としては、昨年度の春インカレ後の総会で学生向けに出した資料と同じですが、

◆フットオリエンテーリング4種目(ロング、ミドル、スプリント、リレー)すべての競技で学生選手権者を決める。

◆スプリントは山でのナビゲーションは苦手だが走力はあるという人にも上位進出のチャンスがあり、より幅広い人にインカレでの活躍という楽しさを感じる機会ができる。

◆特に「観戦・応援」が重視されるインカレにおいて、それらとスプリント競技は相性が良く、他の競技とは違ったオリエンテーリングの魅力を感じることができる。

◆オリエンテーリングは競技テレビのタイプへの慣れが結果にある程度影響するため、開催地に近い選手が有利になる。一方でスプリントは他の種目と異なり開催地による有利不利が少ない競技であるため、4年間という限られた期間しかないインカレで開催地という要素無しに競うことができる。

といったところがスプリント競技の導入する意義かなと考えています。

またその中で、(全員でなくても)一定数がスプリント競技の頂点を目指すことにモチベーションを感じ、努力を積むのなら、そのためにぜひ運営に力を貸したいと思っていたことが今回の大会開催のモチベーションでもありました。

実際、私自身現役の最後1年の目標は4冠だったということもあります。

ちなみに、私の中では思ったよりは高評価だなという印象でした。

あのコースは、我ながら不満な点がいろいろとあるので(苦笑)

また、今回のトレインの質という点では、よりベターなトレインは確かにあり(三国運動公園、今回の会場から 10km ほど)、そこで行う検討もしていました。
ですが、参加者・観戦者の確保、運営負担の軽減という点から、トリムパークかなづで行ったという形です。

私自身は、「トレインの質は二の次で、継続した開催が大事」だと思っています。
やはり毎年開催されるというのは非常に重要で、継続開催のために質を落とすことは、インカレの他の種目でも行われてきたことだと思いますし。

ベストな選択肢でなくてもベターな選択肢であれば良い、というようなイメージで、スプリントとしての要素の割合を増やすよう努力する

良質なトレイン開発は努力目標ではあるけれど必須項目では無いとすべきかなと思っています。

また、まだスプリント単体では参加者数は少ないと思います。
可能ならばモデルイベントとの共催を行い、参加者数・観戦者数を増やさないと、スプリントは競技としてもインカレとしても発展していかないかなと考えています。

ただ、昨年度のアンケートでも、より下の学年ほど高評価でした。
なので、「スプリントがインカレとしてあるのが普通」という学生が大半を占めるようになった頃が、1つの転機かなと思っています。

2014 年 11 月 4 日 23:33 西村徳真(NishiPRO) <[nishipro12\[at\]gmail.com](mailto:nishipro12[at]gmail.com)>:
>西村が考えているスプリントトレインは、外にもっと良いトレインを求めた方が
良いかな、と思い直しているわけ？

実は自分、まだ一度も下見してないんですよね。最初はあり合わせのトレインでやるしかないじゃんって思っていたので。そういうわけで、「これから考えます」ってのが正直なところ。最大限、富士見高原での開催を追求しようとは思っていますが。

さらに自分の意見を述べておくと、一定期間(たとえば 5 年くらい)はトレインがどうだろうがなんだろうが継続すべし、と思っています。でも、その期間が過ぎたところで一回効果があったかどうかを確認し、「やめる」「続ける」「もう少しだけ猶予」の判断をするのが良いと思います。

その「効果」は、例えば、「他の種目を差し置いてスプリント競技を目指したいと思う学生が一定数居る」という状態になれば成功、とかそんな感じです。逆に 5 年間やってそういう人がほとんど現れなかったら、「この事業は失敗」と判断して潔くやめるべきだと思います。

やっぱだらだら続けるの良くないですからね。運営者に負荷をかけてやる以上は短期間でちゃんと成果を出す運用が望まれるでしょう。

西村です。

山上さん、ご意見ありがとうございます。

まとめると、スプリントを目指す人材の育成という目標設定は共通していて、

そのための手段として、

- ・トレインの質
- ・継続開催
- ・観客数
- ・etc

どれを重きに置くのが良いのか。

この 3 人で共通しているのは、継続開催が最優先であり、その次が僕はトレインの質じゃないか、山上はいや観客数じゃないか、というところですかね。

大筋では同じ方向で考えられているかな、と思いました。

賛成意見理由

B エリートは必要ないと思います。

選手権 B も選手権 A も走ったことがあります、選手権 B では選手権という感覚はなく、あくまでおまけって感じでした。なので、選手権というものにする必要はないと思うし、一般クラスで十分だと思う。

一般クラスと差別化するために選手権クラスは1つでよい。選手権 B クラスの位置づけが曖昧になっている。B クラスの選手層を受け入れる一般上位クラスが設置されるあれば、選手権を一本化したほうがよいと思う。

そもそも B 決勝ってなんだ?という感じがあるし、一部を除きレベルも低い。また、男子は B があっていいにせよ、女子の B に価値を感じない。

また女子は B 決勝があるせいで、一般クラスのレベルが著しく落ちている。

セレに出場できなかつたり、失格になった人がつまらないコースを走らされるはめになっている。WUA の難易度を高め、それでは完走できない人を WUB へ誘導する策も必要。

一本化する事でよりハイレベルなレースになると思うから。

B エリートの存在意義が曖昧だから

B 決勝が予選決勝方式時代からの名残で残されたことは理解できるが、予選決勝方式が廃止されたことすら知らない学生が増えた今、現在の学生のモチベーションとして B 決勝は相応しくないと考えるから。

選手権 B の位置付けが微妙になっているから

一本化することによって、選手権 A の充実を計れるから

・一般クラスのレベル別化というのはよくわからなかった。好きなレベルを選べるのなら、取りあえず一番上のクラスで、という人が大半になって、結局ほとんどの人が同じクラスに走ることになるかもしれない。

かといって上のレベルに出るのにはミドルセレで順位が何位以内の人に限り、という風にしたら、B エリートと変わらない。

・B をなくして A エリートを増やすことはいいと思いますが、今の状態でも A エリートの特別感はあるので、B があっても特に不満はないです。

B 決勝の意義が中途半端。MUA と MUB の難易度を適正にしたうえで活性化させたほうが良い。

B より A を増やしてほしい

個人的に B 決勝で入賞しても A 決勝でない時点でインカレという緊張感が感じられないので、一本化しても問題ありません

一本化したら運営が楽になるのであれば、一本化すべきだと思います

条件(枠の増加)付きで賛成。やはり日本 1 の学生を決めるために競うのであればそれは 1 クラスにまとめ、それ以外はエリートとは別で行うべきだと思う。

B がある理由がわからない

選手権 B の必要性を感じないから

B というのが何とも中途半端な気がする。

エリートの B クラスの存在意義があまり感じられない。中堅層のモチベーションアップにつながるとは考えづらい。

一般クラスのレベル別化はよいと思う。そうするならば、ある程度基準を定めてもらうと、モチベーションアップにつながる。

選手権 B の必要性を感じないため

以前、選手権登録料を取るためと聞いたことがあるが、そのためだけに残すのは少し違うように思う

最上位クラスでないのにエリートクラスとされるのには違和感がある

エリートの特別化

選手権 B のレベルはそんなに高くないため、エリートクラスにすることもないから。

一本化した方がスムーズに進むだろうから。

選手権 A の競技を優先して選手権 B の選手がかなり早い時間から競技を始めなければならないの現状に不満がある。

エリートクラスに入る機会を増やして活性化させたいから

B の存在意義が薄い

A と B で分けていることにあまりメリットを感じない。

それなら人数を増やして、みんなエリートとして走れた方がいいと思う

正直 B エリートには観戦や演出においてあまり目を向けられていない気がする。

選手権の枠について、B エリートのもので関わってくるのが少し変かなとは思っていました。また、本来選手権というのはトップのクラスのものであって欲しいかなというのも私の感想です。

B エリートも一般と違う時間に出走させれば、応援も価値も上がると思うが、時間的に難しい話で、それならもうなくしてしまった方がいいのではと思う。

B は本戦でも注目されず、実施している意義があるのか疑問が残る。

エリートのチャンスが増えるのは各学連の選手のモチベーションアップにも繋がる

当日中継したりする選手権 A のみがエリートクラス扱いでいいと思う。

女子については賛成、男子については今の A エリートより枠数が増えるなら一本化してもよい。

選手権 B クラスの必要性をあまり感じない。このクラスは、一般クラスと同様な扱いになっているため、一本化してもあまり変わらないと思う。ただ、選手権 B の人には一般より上級なコースが与えられるため、決して無意味ではないため、判断は難しい。

選手権 B があることで、B 通過を目標にする人がでてくることはおかしいと思います。選手権クラスが二つに分かれていることの意味が分からない。

エリートクラスが二つあるのはおかしい。一般上位クラスにすればいいと思う。B エリートは

エリートとしての選手権者を出さないエリートなので、エリートとしての体をなしていないと思う。1 本化に賛成します。

反対意見理由

モチベーションが上がる

B エリートであっても、エリートの名を冠していることから、目標とする学生がいる。一般上位クラスを設けたとしても、現状ではその代替にはなりにくいのではないとかと思う(長期的には変えていかなければならないかもしれないが)。

インカレミドルはパフォーマンスの側面が強いので、選手権 A のように限られた人数が参加するクラスを作った方がその意味では盛り上がるから。

ただ、今後パフォーマンス的側面を弱め、競技一本に絞っていくのであれば、今回検討している変更は有意義なものであると思う。

レベル別に設けるほうが同枠内での競争意識を高められる

A と B に分けることでうまくレベル分けができており、これ以上一本化してしまうとエリートの枠ギリギリの人の存在価値がなくなってしまい、よくないと思われるため。

従来 방식に不満がないため。

ロングは一本化されているので、ミドルでは 2 クラスあると新人にもチャンスが増えると思う。

新人でもエリートクラスと同等なコースを走ることがより可能となるため

選手権 B が現実的な目標となる選手も多い。自分も 1 年生の時はそこを目標にしていた。確かに選手権 A と比べると扱いも軽いし、不要だという意見はあると思うが、トップ層ではない人の競技に対するモチベーションを保つ 1 つの方法であるように思う。

ただし、コースに関しては昨年度のように A と B で差をつけるべきだと思う。

A クラスを目指すにはハードルが高いが、B クラスを目指すなら目指せる実力の人のモチベーションになるから。

A に走れない実力者の救済措置として。

一年生の目標として B エリートがちょうどいいから。

関東など学連の枠が多いところは A エリートが狙えるので問題ないかもしれませんが少ないところでは一年生が A にはいることはほぼ不可能で B がいい目標になるため。

A,B の 2 クラス設けた方が、オリエン一年目の学生でも、エリートという舞台で競技をして活躍できるチャンスがあるのだということを強調できるため。

選手権 B の出場を、「選手権クラス出場」という意味で捉え、選手権 B を目標としている人もいます。特に 2 年目に見られる傾向で、3 年目以降に選手権 A に出場するための、1 つめのステップと考えていると考えます。

「選手権 B だとモチベーションが下がる=一般クラスと一緒に」といった意見も分からなくはな

いですが、選手権 B を目標とする人の気持ちも考えてほしいです。

2 クラスに分かれていることで、エリート出場可能性が高くなる。たとえ B だとしても出れたことは自信につながる。

賛成の理由が「エリートはもっと崇められるものであるべき!」と感情論に留まっているから。B エリートの存在は、1 年生にとっては目指すべき対象となりやすく、当落が成長に繋がりやすいから。

現状の B エリートと一般の上位クラスの設置は結局やることは同じ。それなら B エリートという形の方が、セレの段階からモチベーションアップにつながるし、エリートに通ったということが自信にもなる。

また一般クラスを今の A クラス、B クラスより種類を増やしても、学生に自分の適正なクラスの判断は難しく、混乱を招くだけでは。

レベル差が開くため、コースの難易度設定が落ちるのでは

今のエリートでも走り切るのがやっとの人にもいるのにこれ以上枠を増やしても無意味(女子)「選手権」というクラスを走る事を明確な目標にしている人がいる事、

しかし選手権 A は間口が狭すぎて目標に置けないため選手権 B が必要なのではないかと思う